

令和7年度 第2回いわき市男女共同参画審議会

議事(1) 男女共同参画各種アンケートの集計・分析結果等について

	市 民	高 校 生	事 業 所
調査対象	市内に在住または通勤 通学する18歳以上の者	市内の高校2年生 (特別支援学校含む)	従業者10人以上の 民営事業所
調査期間	9月1日～ 9月30日	9月1日～ 9月30日	10月15日～ 11月20日
設問数 (自由記述含む)	32問	19問	25問
対象者数	約260,000人	約2,450人	1,264事業所
回答数	818件	1,154件	179件
回答方法	LoGoフォーム	LoGoフォーム	LoGoフォーム

【市民アンケート】

【合計32問】

- ① 回答者の属性等について（5問）
- ② 家庭・結婚観などについて（3問）
- ③ 子育てについて（2問）
- ④ 仕事について（6問）
- ⑤ 女性の活躍推進について（6問）
- ⑥ 人権について（6問）
- ⑦ 防災について（1問）
- ⑧ 社会参加について（2問）
- ⑨ いわき市における男女共同参画への意見・要望（1問 ※自由記述）

【市民アンケート】

主な課題など

性別による
役割意識

- 家事・育児は女性が担うべきとする意識が依然としてみられる
- 男女平等の認識に世代差や場面差がみられる

仕事と家庭
の両立

- 出産・育児を契機とした女性の離職が課題となっている
- 仕事と家庭の両立を支える職場環境が十分とは言えない

多様性への
理解

- 性的指向・性自認など多様な性に関する理解が十分ではない
- 多様性を尊重する社会への意識に差がみられる

女性
社会参画の

- 意思決定の場における女性の参画が十分とは言えない
- 女性の能力発揮やキャリア形成を支える環境が必要

ハラスメント
とDV

- ハラスメントやDVに関する問題が依然として存在する
- 相談窓口の認知や利用が十分でない可能性がある

地域
社会参画

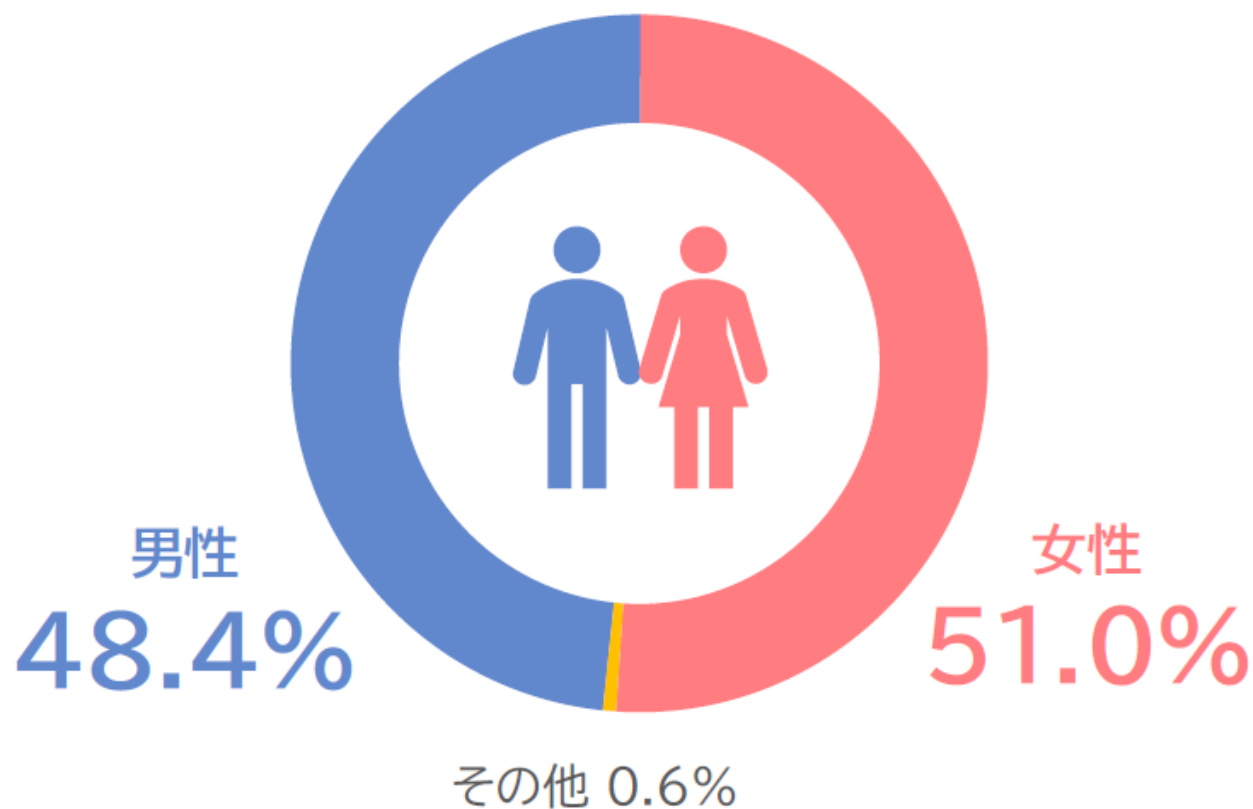
- 地域活動や防災分野における男女共同参画の視点が十分ではない
- 男性の家事・地域活動への参加が十分とは言えない

回答者の属性等について

- 回答者の性別について、「男性」が48.4%、「女性」が51.0%、「その他」が0.6%である。

◀ 回答者の性別 ▶

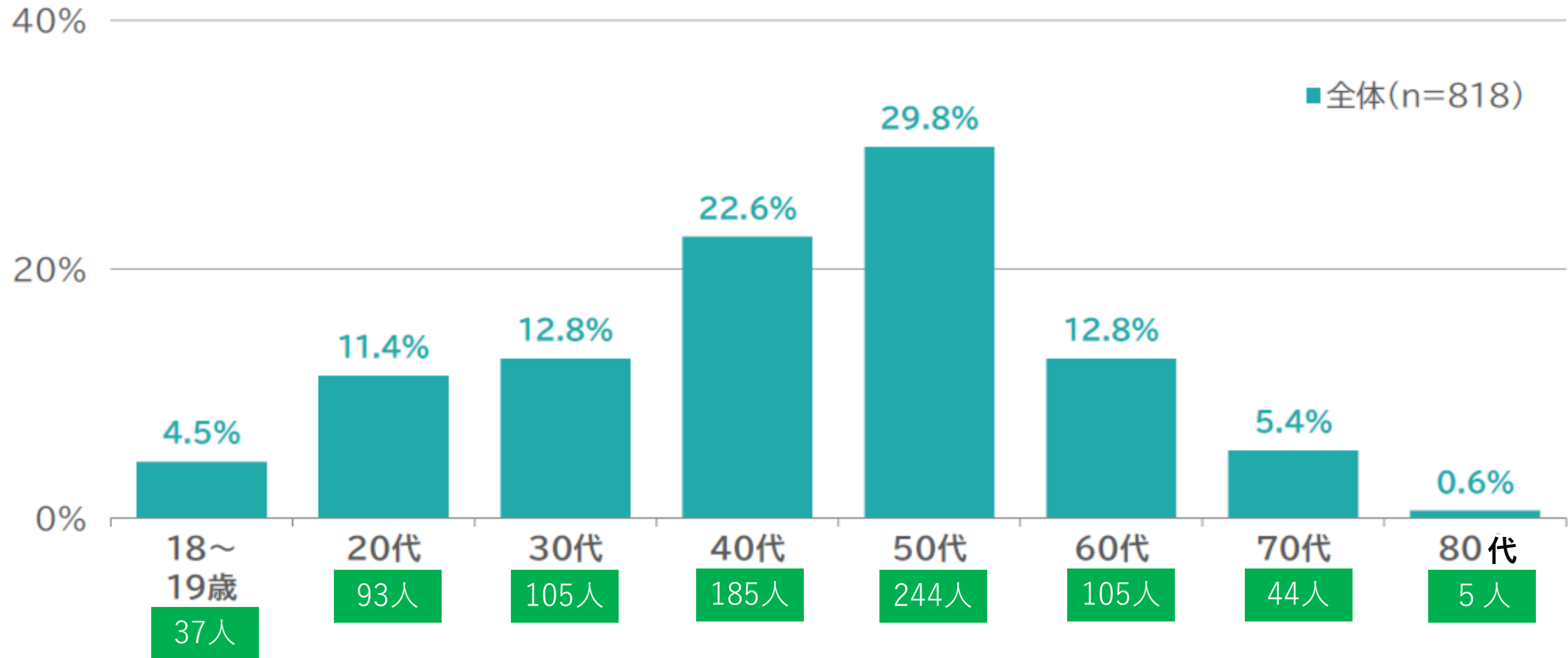
(全体：n=818) (単回答)



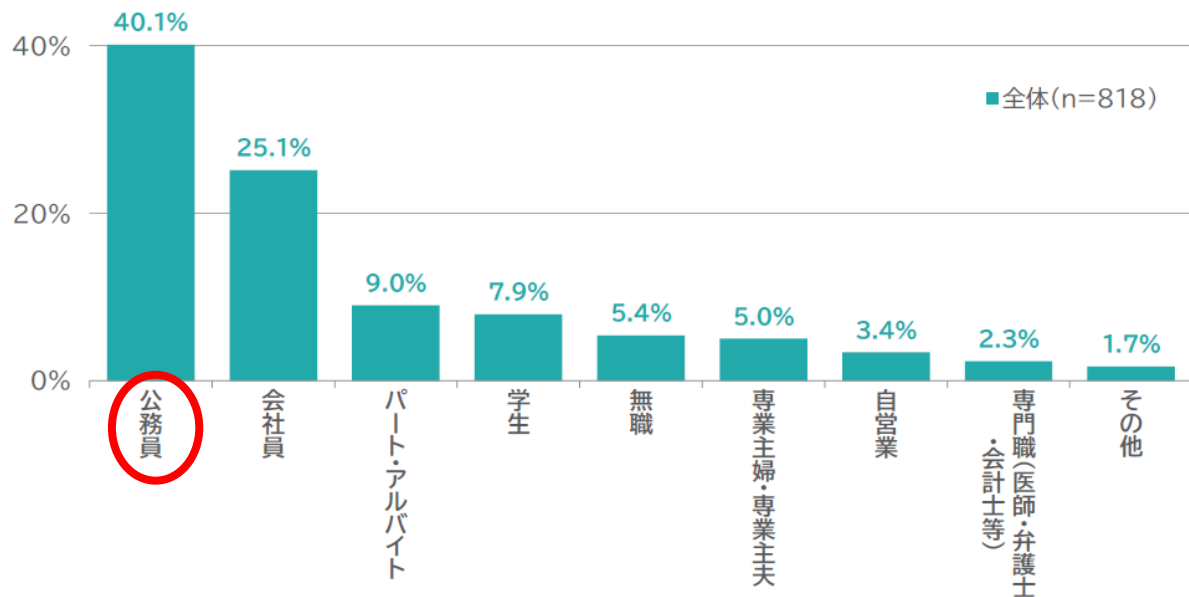
性別	全体(n=818)	
	回答数	割合
男性	396	48.4%
女性	417	51.0%
その他	5	0.6%
合計	818	100.0%

Q2 あなたの年齢はどれにあてはまりますか。(あてはまるもの1つ)

属性②

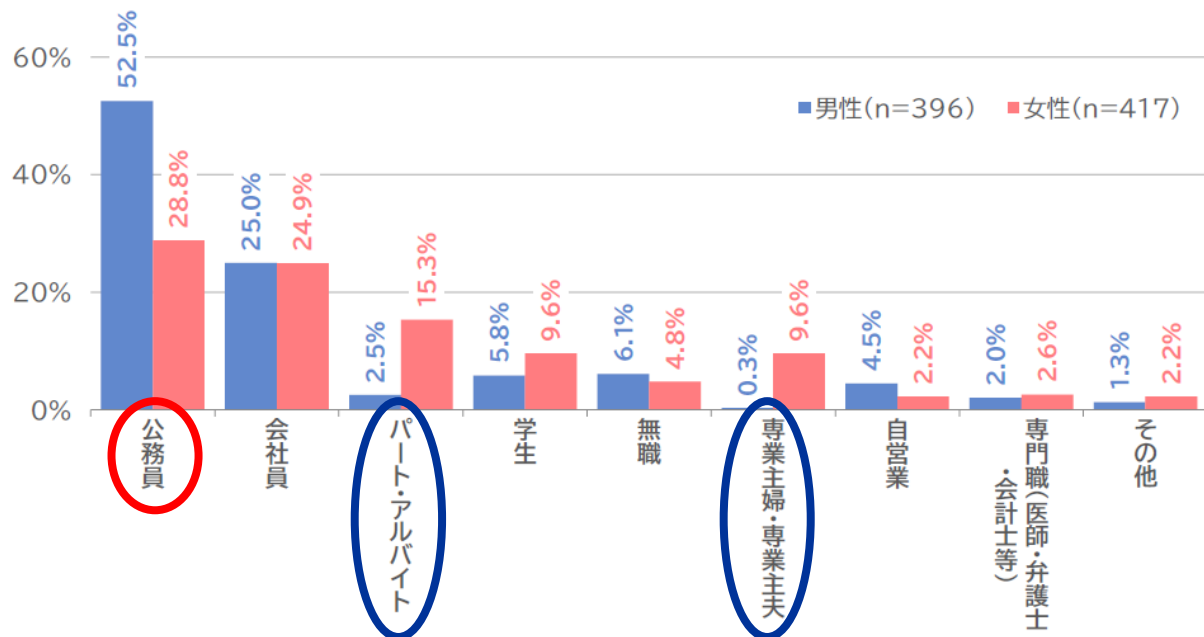


◀ 職業 ▶ (全体：n=818) (単回答)



「公務員」が40.1%と最も多く、

次いで、
「会社員」25.1%、
「パート・アルバイト」9.0%、
「学生」7.9% の順となっている。

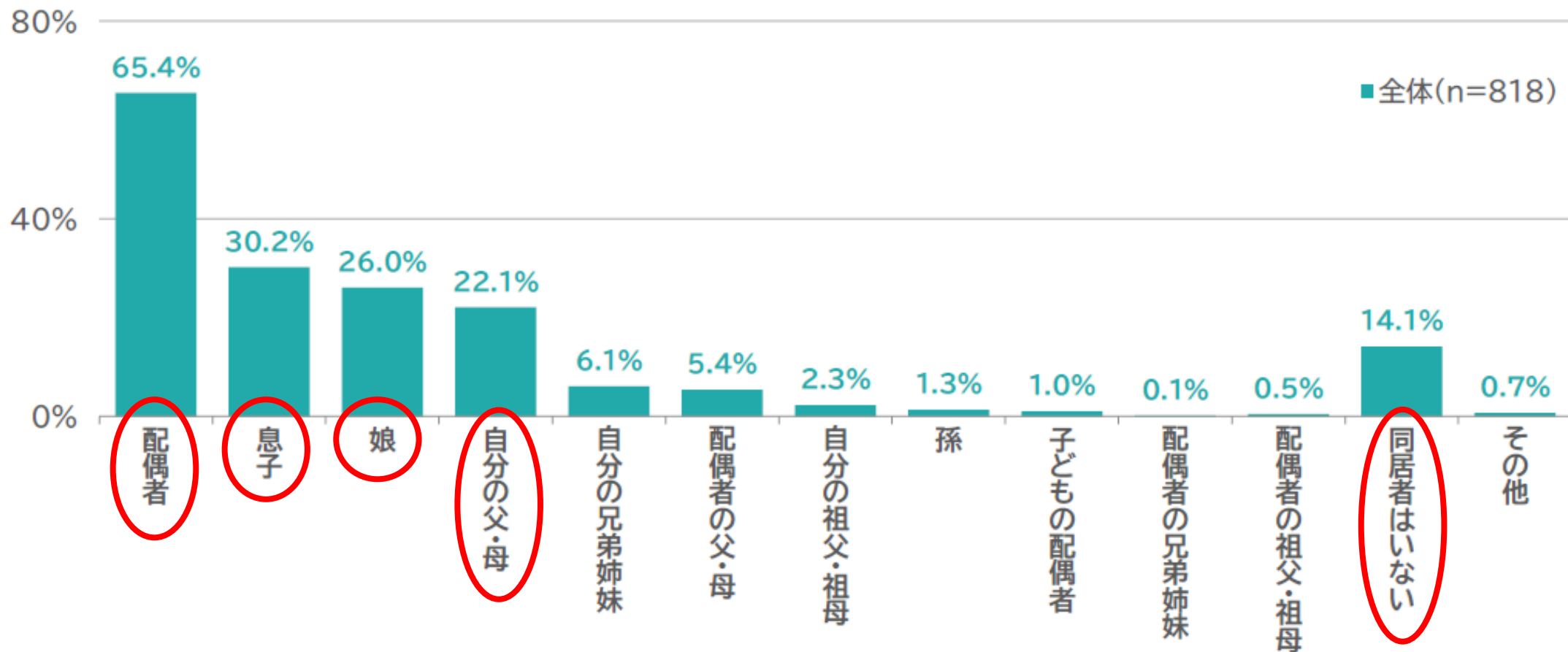


男女別に見ると、
「公務員」においては、
男性が、52.5% と過半数を占めているのに対し、
女性は、28.8% にとどまっている。

一方で、
「パート・アルバイト」(15.3%) や
「専業主婦・専業主夫」(9.6%) においては、
女性の割合が男性に比べて高く、

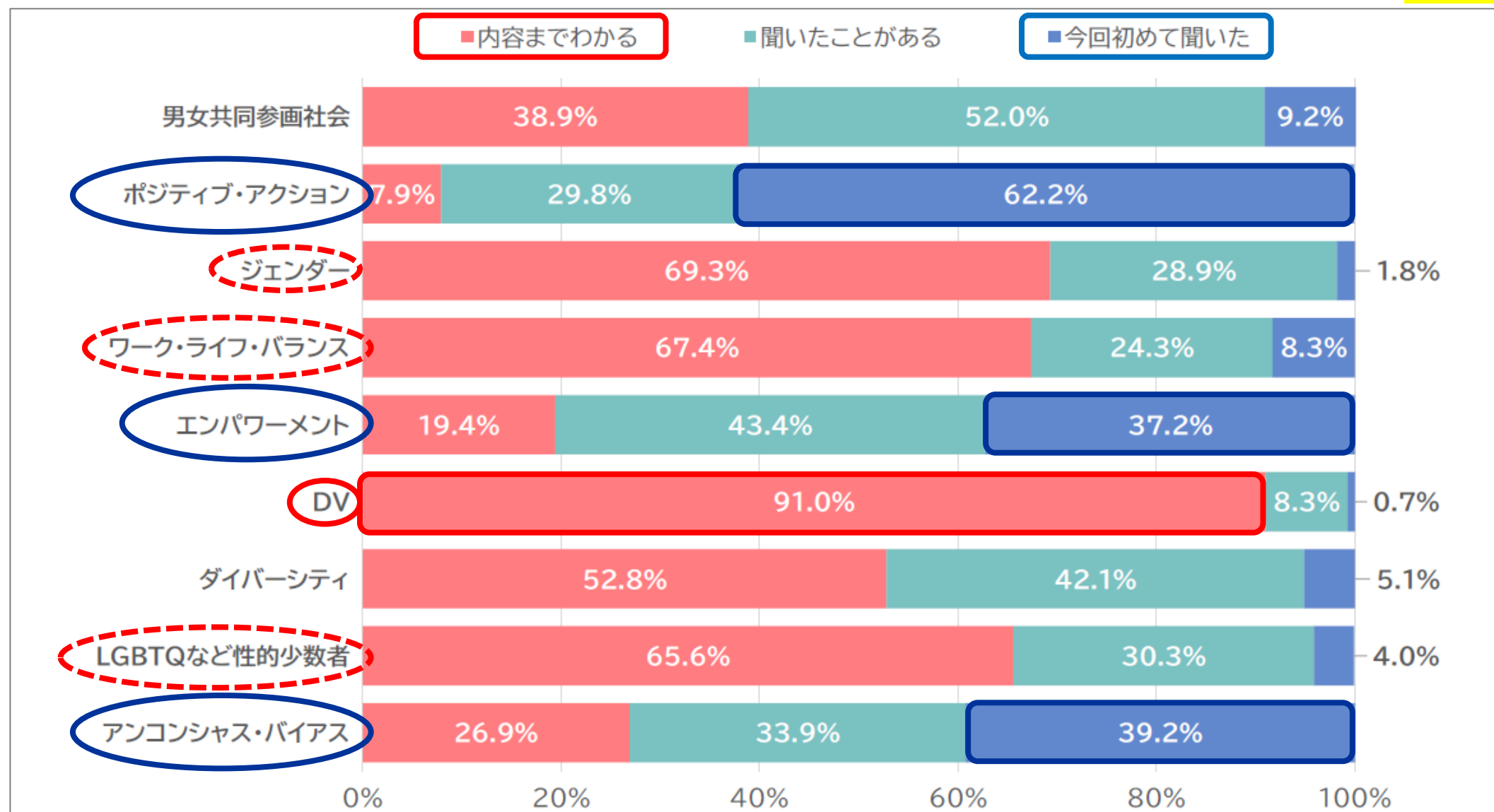
雇用形態や就業形態に男女差が見られる

◀ 同居者 ▶（全体：n=818）（複数回答）

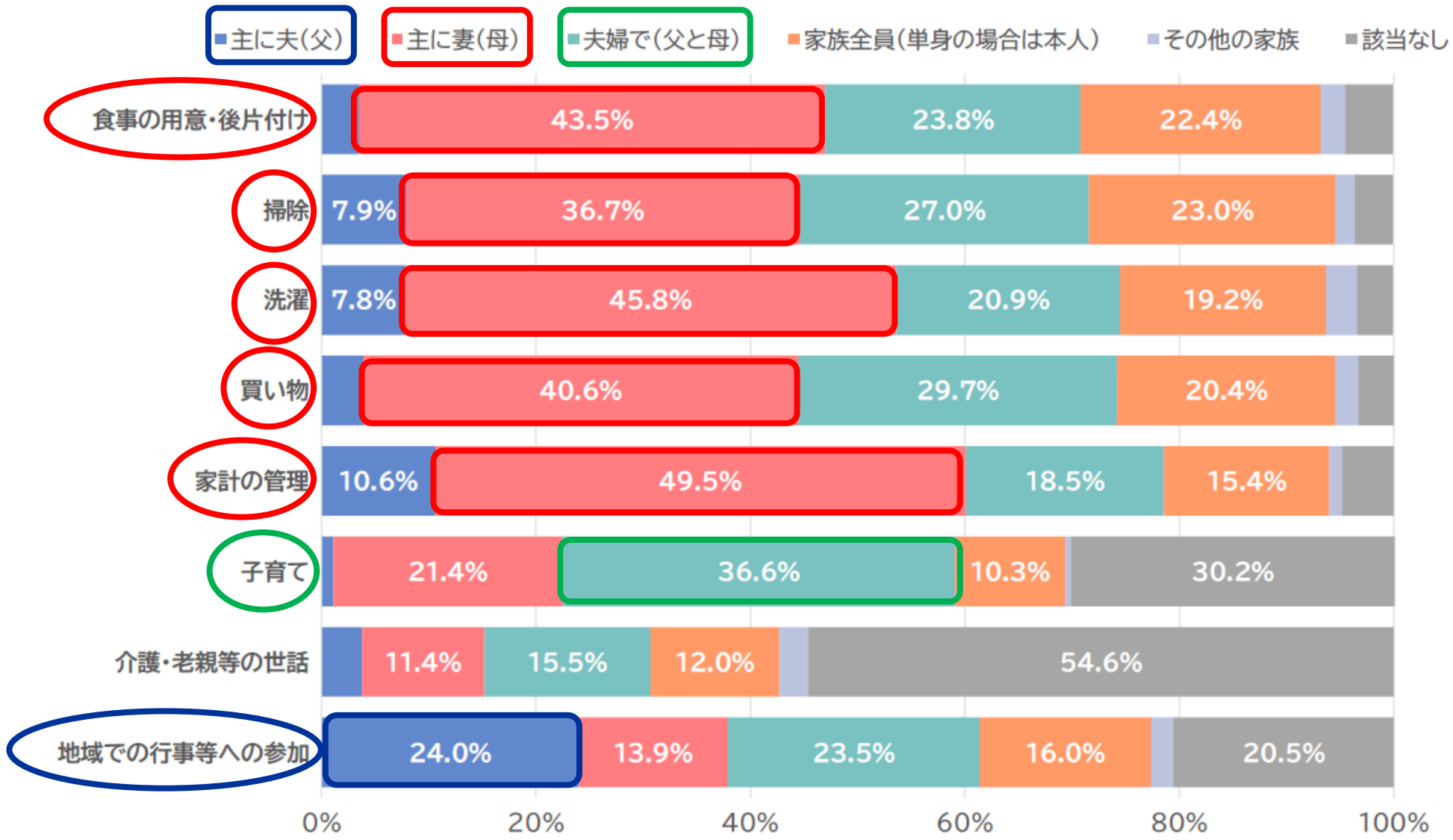


「配偶者（夫・妻、内縁を含む）」が65.4%と最多。次いで、「息子」30.2%、「娘」26.0%の順となっている。また、「自分の父・母」と同居（22.1%）や同居者なし（単身世帯）14.1%と続く。

男女共同参画について

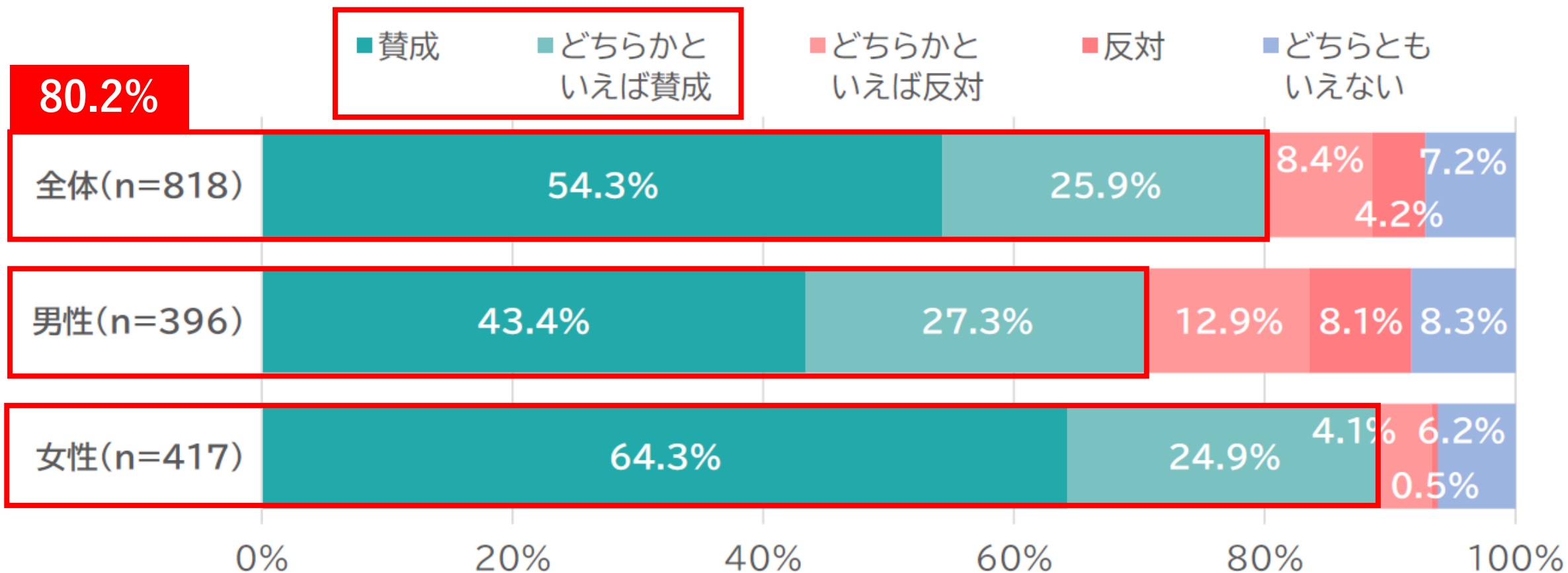


社会的認知が進んでいる用語（「DV」、「ジェンダー」、「ワーク・ライフ・バランス」、「LGBTQ」など）と、社会的認知が進んでいない用語（「ポジティブ・アクション」、「アンコンシャス・バイアス」など）の隔たりが大きい。



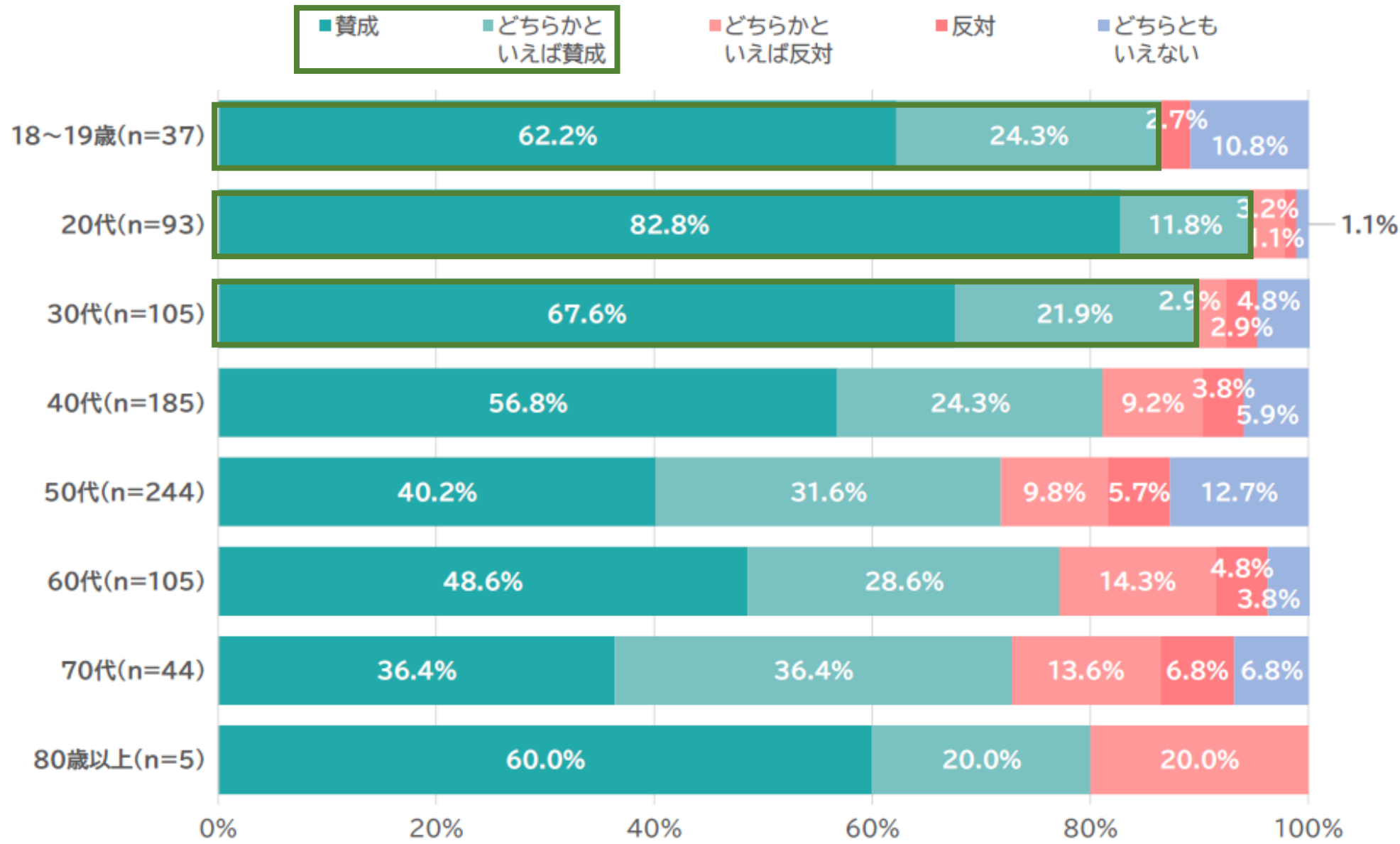
食事、掃除、洗濯、買い物、家計管理は女性主体である一方、子育てや地域活動では夫の関与も一定程度見られる。家事の男女協力は一部で進んでいるが、家事負担の偏りは依然残る傾向にある。

《 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい 》



全体では、「結婚は個人の自由であることについて賛成」が多数派（8割超）で、性別に縛られない意識が広がっている。また、男性よりも、女性にその意識が浸透している。

《 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい 》



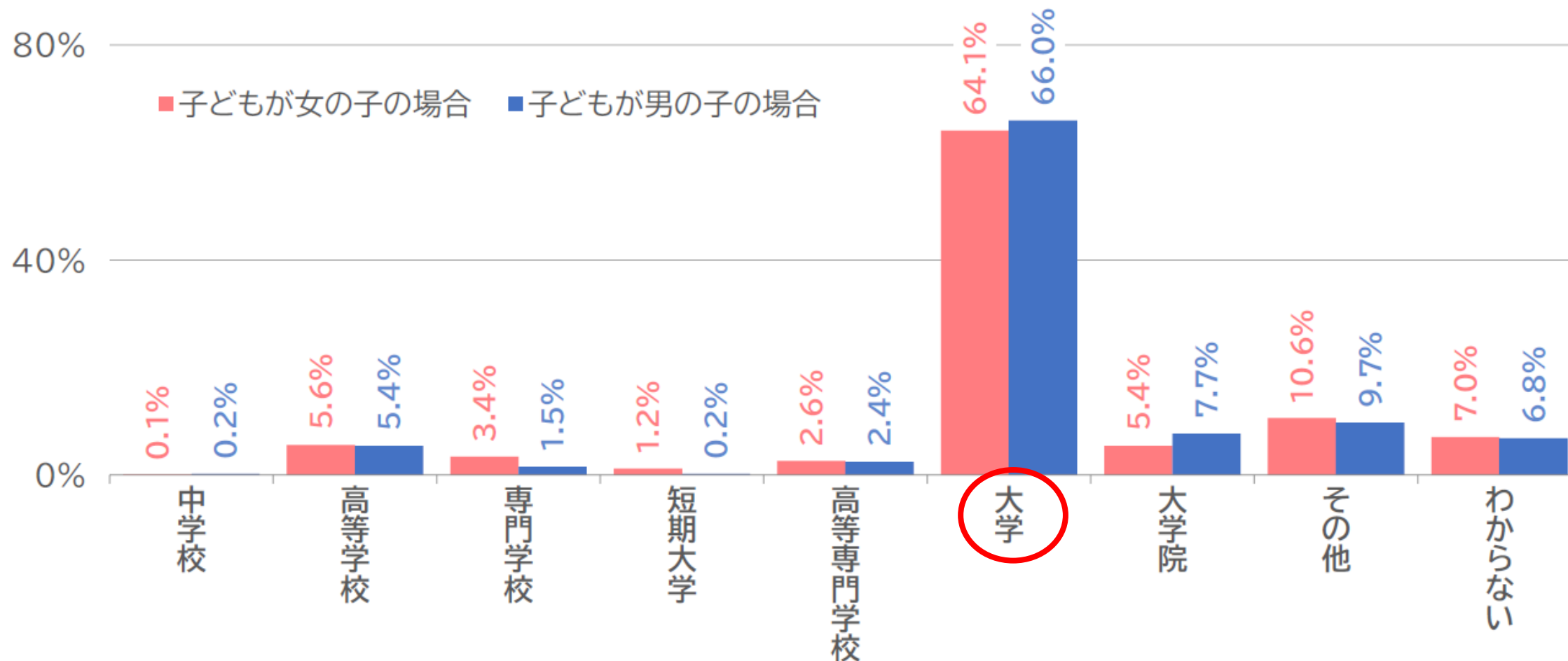
「賛成」、「どちらかといえば賛成」の合計割合（緑枠）が、

18~19歳：86.5%

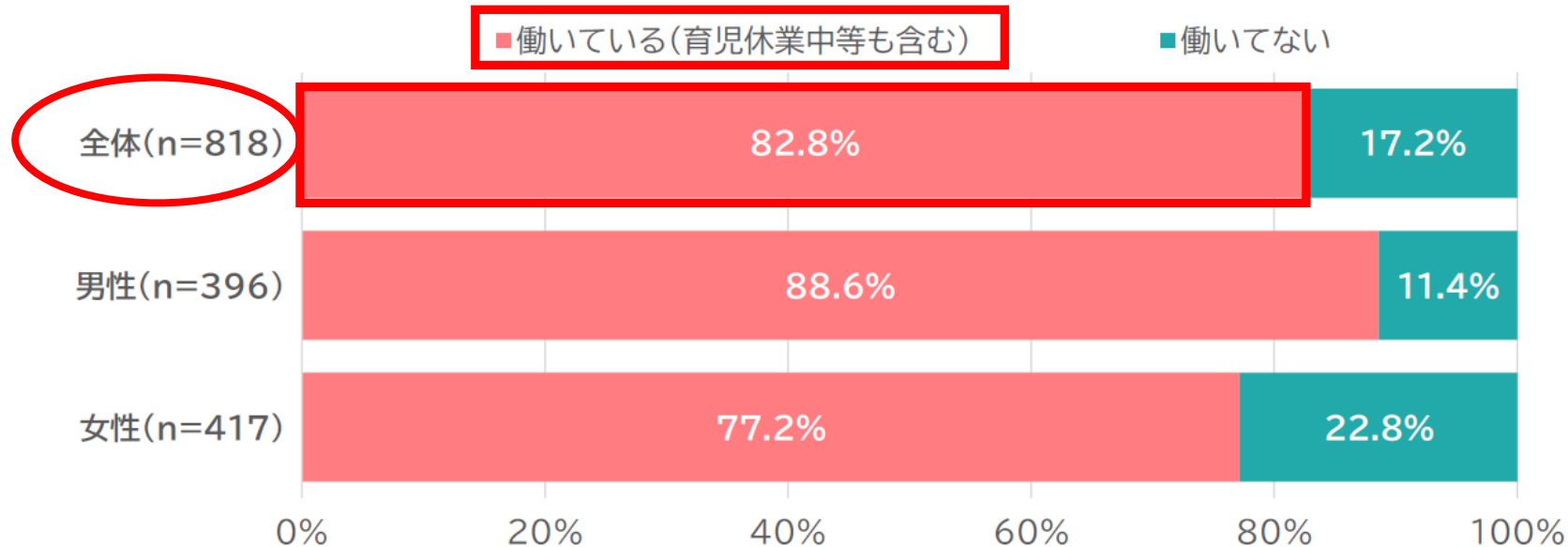
20代：94.6%

30代：89.5%

若年層ほど「結婚は個人の自由」とする価値観が強く浸透している。

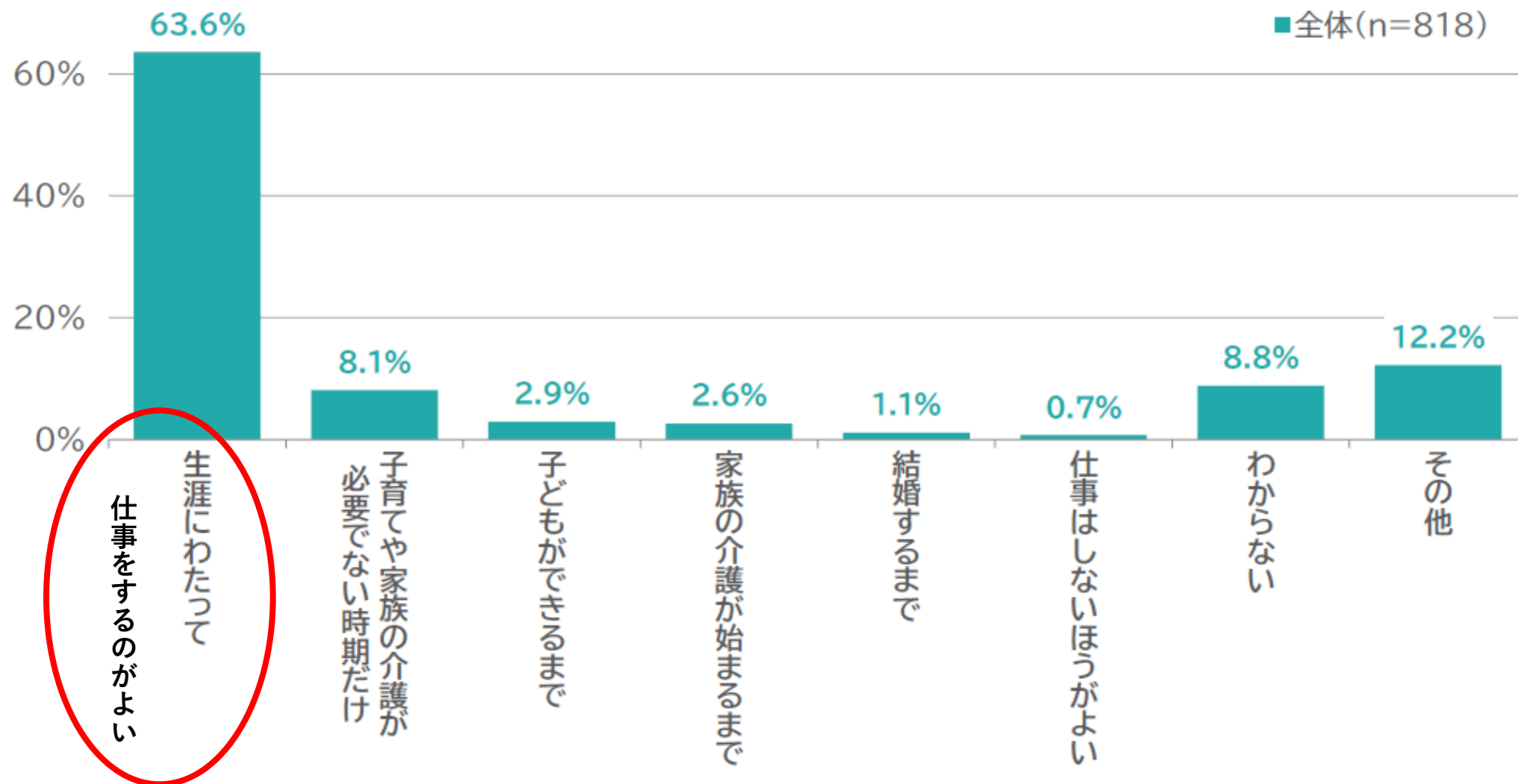


親が希望する子どもの最終学歴は大学進学が最も多く、【子どもが女の子の場合】64.1%、【子どもが男の子の場合】66.0%
 大学院についても、【女の子の場合】5.4%、【男の子の場合】7.7%で、一定の割合を占める。
 将来の職業選択や学習機会の確保を重視していることがうかがえる。



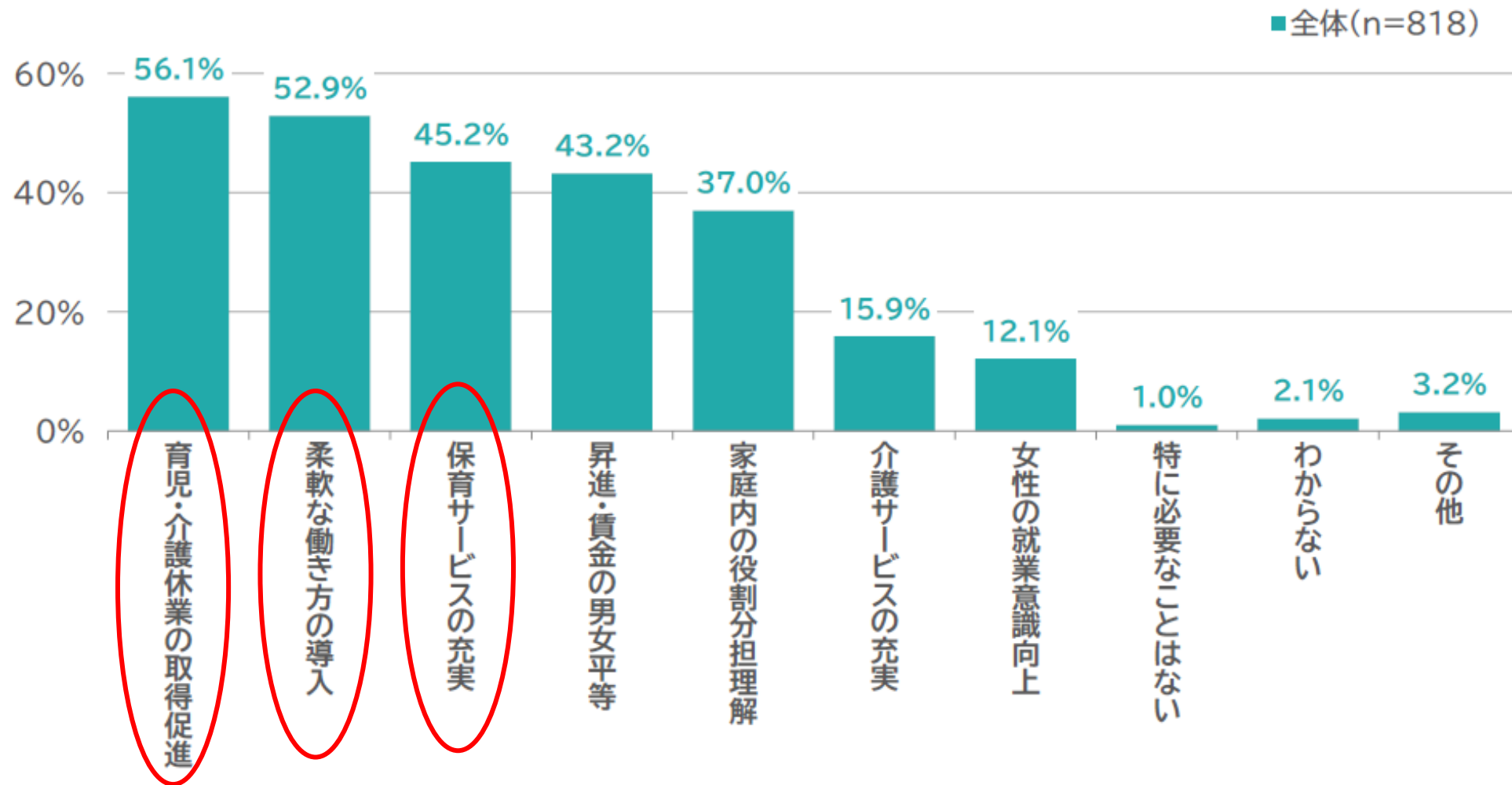
就業状況	全体(n=818)		男性(n=396)		女性(n=417)	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
働いている(育児休業中等も含む)	677	82.8%	351	88.6%	322	77.2%
働いてない	141	17.2%	45	11.4%	95	22.8%
合計	818	100.0%	396	100.0%	417	100.0%

回答者の就業率は全体で82.8%と高く、特に男性は88.6%とほとんどが働いているのに対し、女性は77.2%と低めで、働いていない割合22.8%は男性の約2倍となっている。



◆全体では、「生涯にわたり仕事をするのがよい」が 63.6%と最多で、男女ともに多数を占める。

(3つまで選択可)



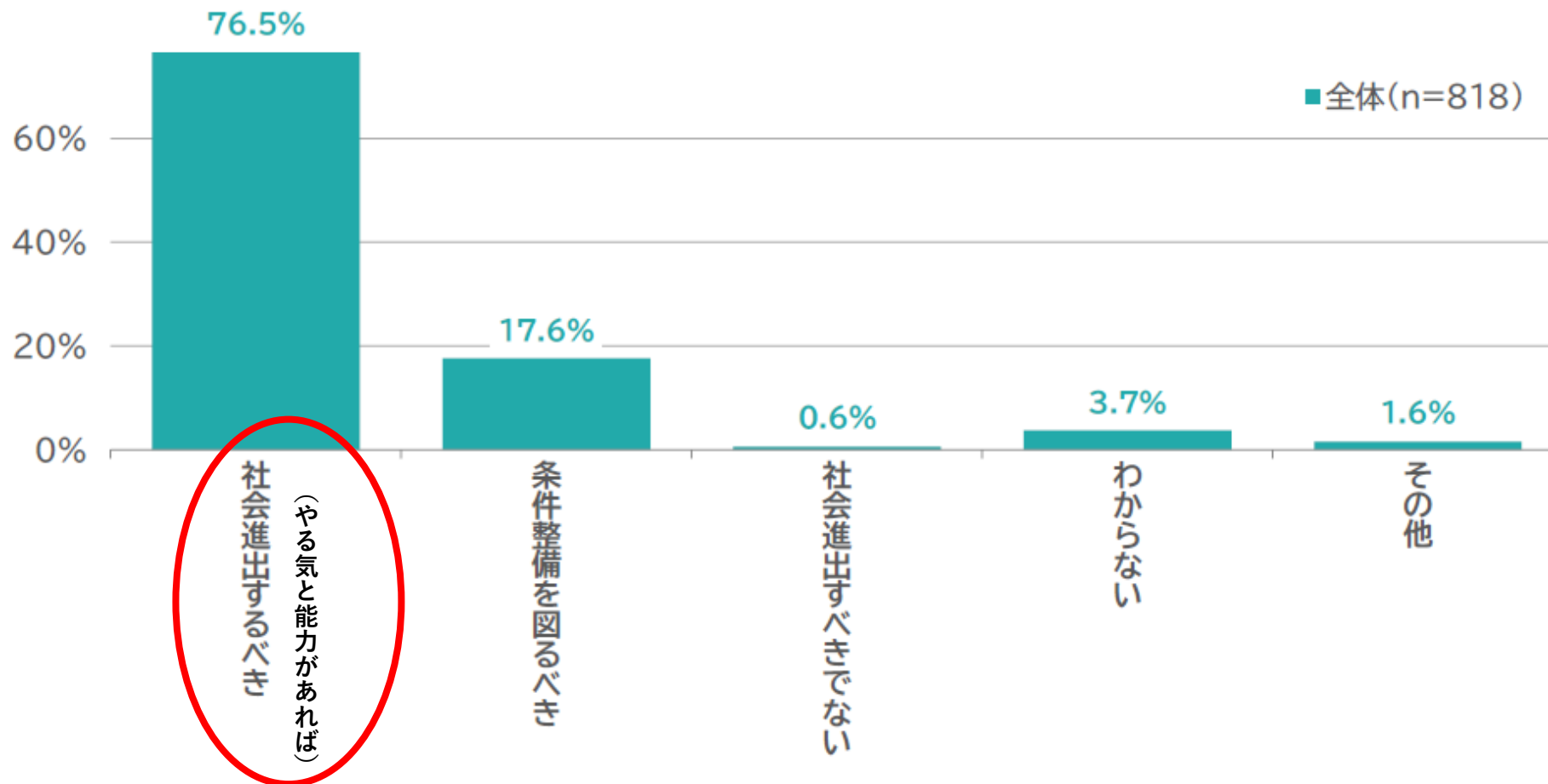
働き続けるためには、育児・介護休業や柔軟な勤務形態など、仕事と家庭を両立できる職場環境の整備を重要視。制度面と周囲の理解を一体的に進める必要がある。

女性活躍推進について

Q17

男女共同参画では、男女が社会の対等な構成員として、ともに社会のあらゆる分野において活動し、ともに政策や方針の決定に参画していくことが求められていますが、女性が社会に進出していくことについて、どのように思いますか。（当てはまるもの1つ）

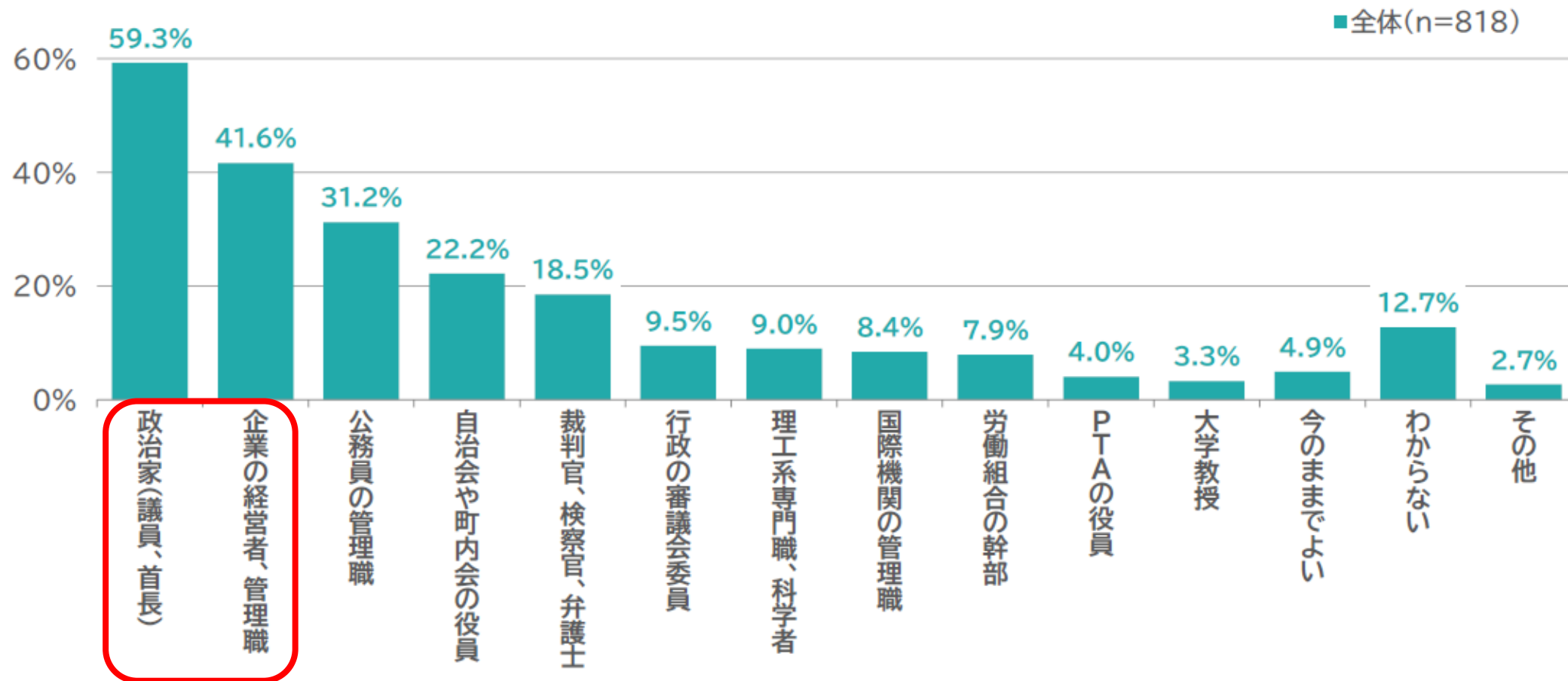
◀ 女性の社会進出について ▶（全体：n=818）（単回答）



「能力とやる気があれば社会進出すべき」との回答が、76.5%と多数を占める。

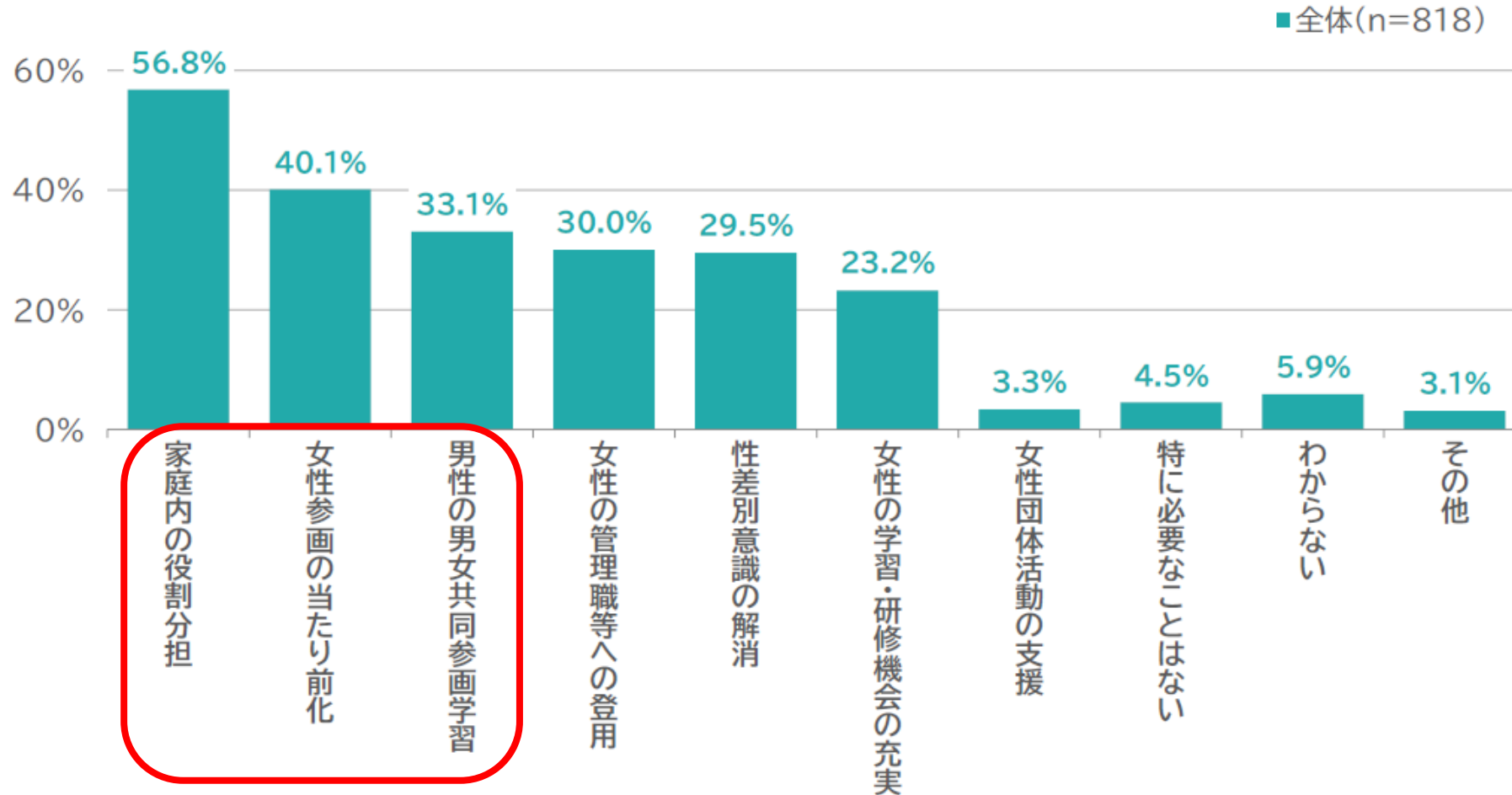
男女がともに政策や方針の決定に参画していくために、今後もっと女性が増えたほうがよいと思う職業（役職）は何ですか。（3つまで選択可）

◀ 増えた方がよい女性の職業 ▶（全体：n=818）（3つまで選択可）

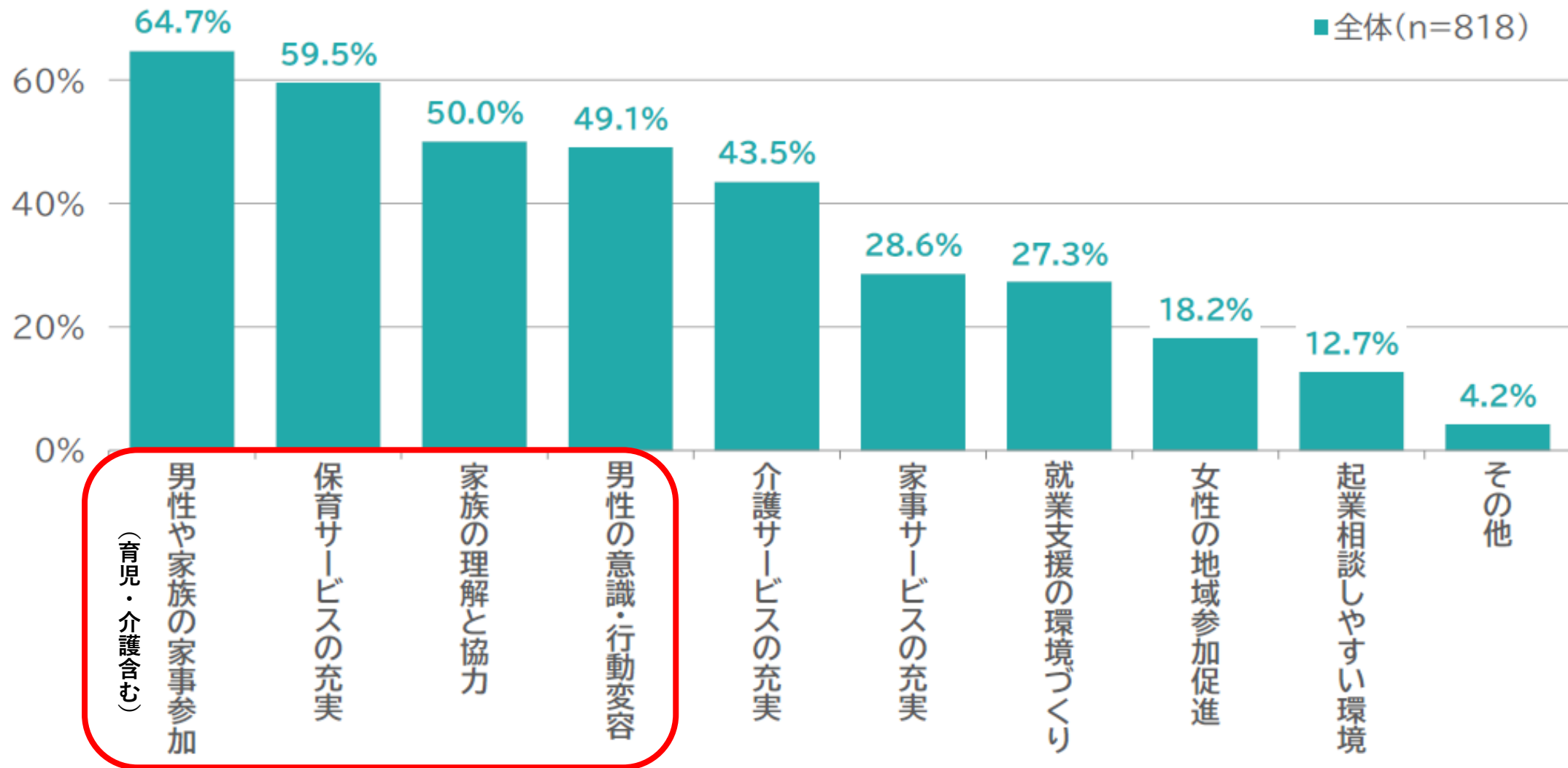


女性の進出が望まれる職業は全体・男女とも、「政治家」（議員・首長）が最多。次いで「企業の経営者・管理職」が続く。

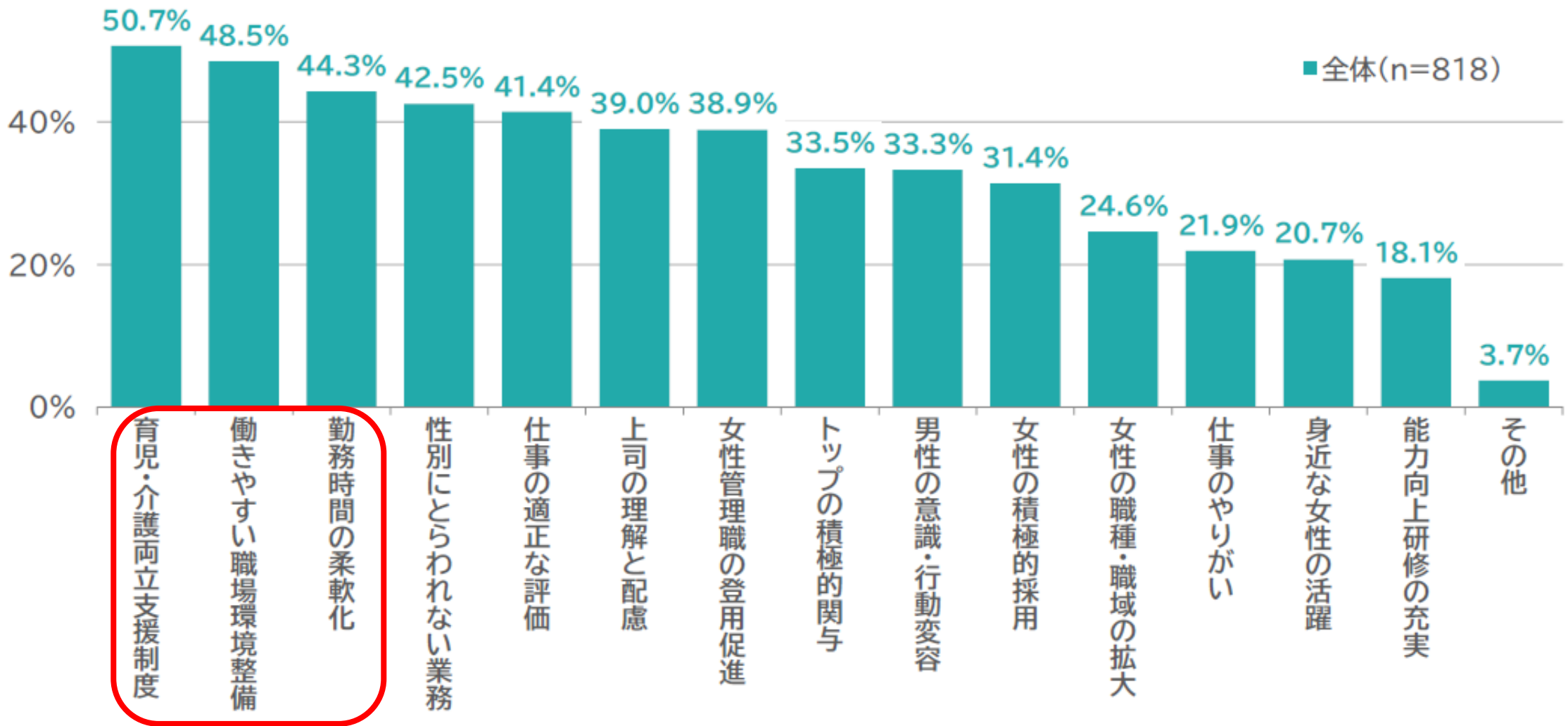
女性が社会に進出し、男性とともに政策や方針の決定に参画していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(3つまで選択可)



家庭・意識・制度の多方面からの支援が必要とされる結果。
働き続けるためには、育児・介護休業や柔軟な勤務形態など、仕事と家庭を両立できる職場環境の整備が最重要であり、制度面と周囲の理解を一体的に進める必要がある。



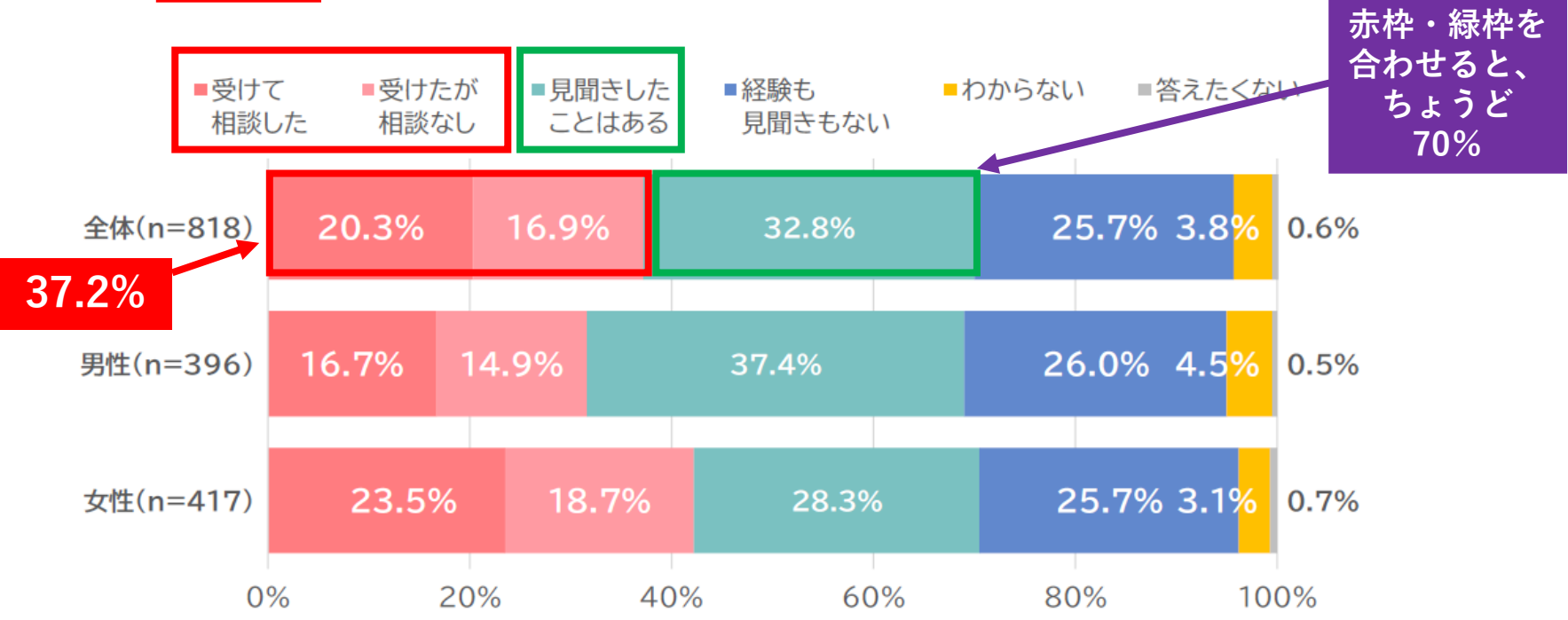
最も多いのは「男性や家族の家事・育児・介護参加」が64.7%で、家庭内の役割分担の見直しが女性活躍の前提条件として強く認識。次いで、「保育サービスの充実」が59.5%、「家族の理解と協力」が50.0%と高く、仕事と家庭の両立を支える環境整備への要望が顕著。また、「男性の意識・行動変容」(49.1%)も約半数に達する。



女性が職場で活躍するために最も必要とされるのは、「育児・介護との両立を支援する制度の充実」で50.7%、次いで、「働きやすい職場の環境の整備」が48.5%、「時間外勤務の抑制や勤務時間の柔軟化」が44.3%と高く、仕事と生活の両立を支える環境整備への期待が顕著である。

人権・DVについて

あなたは、ハラスメント（セクハラやパワハラ、マタハラ等）を受けたことや、身近で見聞きしたことがありますか。（あてはまるもの1つ）

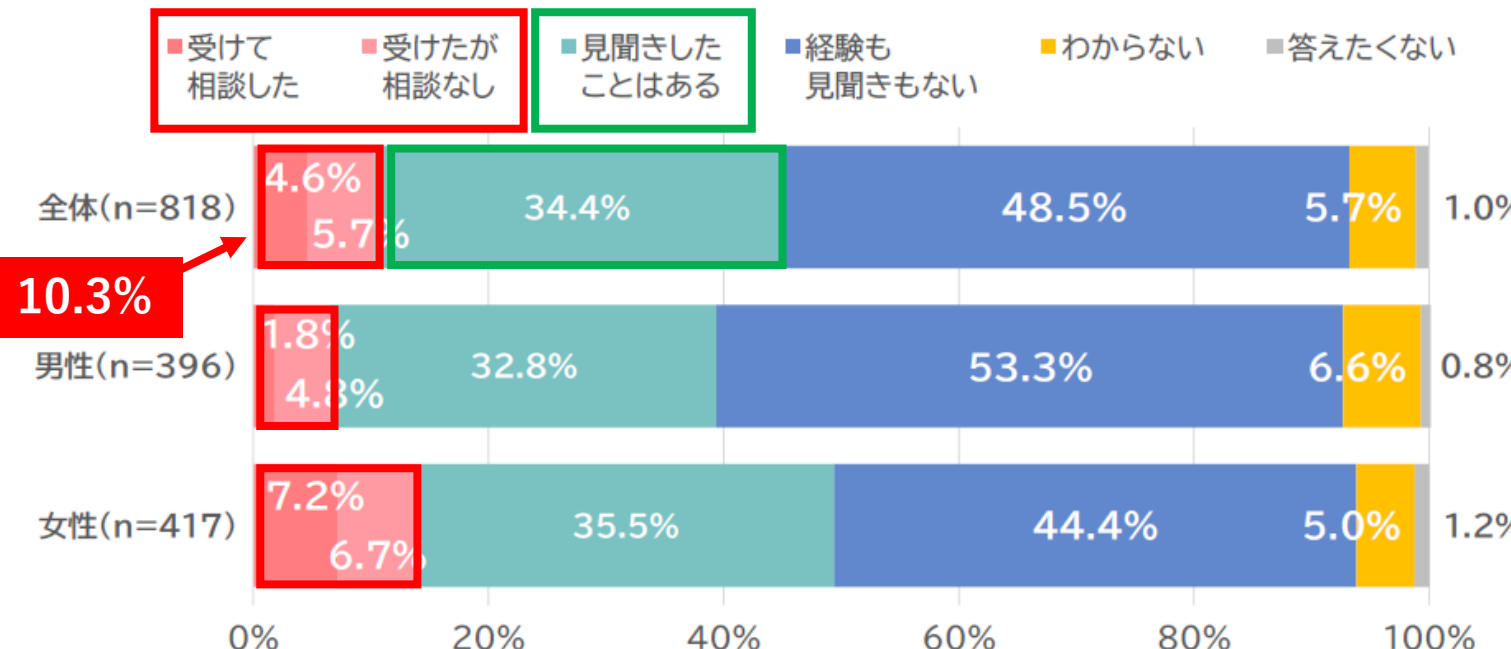


ハラスメントを「**受けたことがあります相談した**」20.3%、「**受けたが相談しなかった**」16.9%で、計**37.2%（赤枠）**が、**自身でハラスメントを受けた経験あり。**

さらに「**身近で見聞きした**」**32.8%（緑枠）**を合わせると、**ちょうど70%に上る。**

ハラスメントの有無	全体(n=818)		男性(n=396)		女性(n=417)	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
受けたことがあります、誰かに相談した	166	20.3%	66	16.7%	98	23.5%
受けたことはあるが、誰にも相談しなかった	138	16.9%	59	14.9%	78	18.7%
受けたことはないが、身近で見聞きしたことはある	268	32.8%	148	37.4%	118	28.3%
受けたことや、身近で見聞きしたことはない	210	25.7%	103	26.0%	107	25.7%
わからない	31	3.8%	18	4.5%	13	3.1%
答えたくない	5	0.6%	2	0.5%	3	0.7%
合計	818	100.1%	396	100.0%	417	100.0%

Q24 あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV）（※）を受けたり、身近で見聞きしたことがありますか。（あてはまるもの1つ）



10.3%

DVを「受けたことがあり相談した」が4.6%、
 「受けたが相談なし」が5.7%で、
 DV被害者は、合わせて、
 10.3%（赤枠）であった。
 （女性が男性より多く被害を受けている）
 「身近で見聞きしたことがある」は、
 34.4%（緑枠）と合わせると、
 半数近くに迫る。

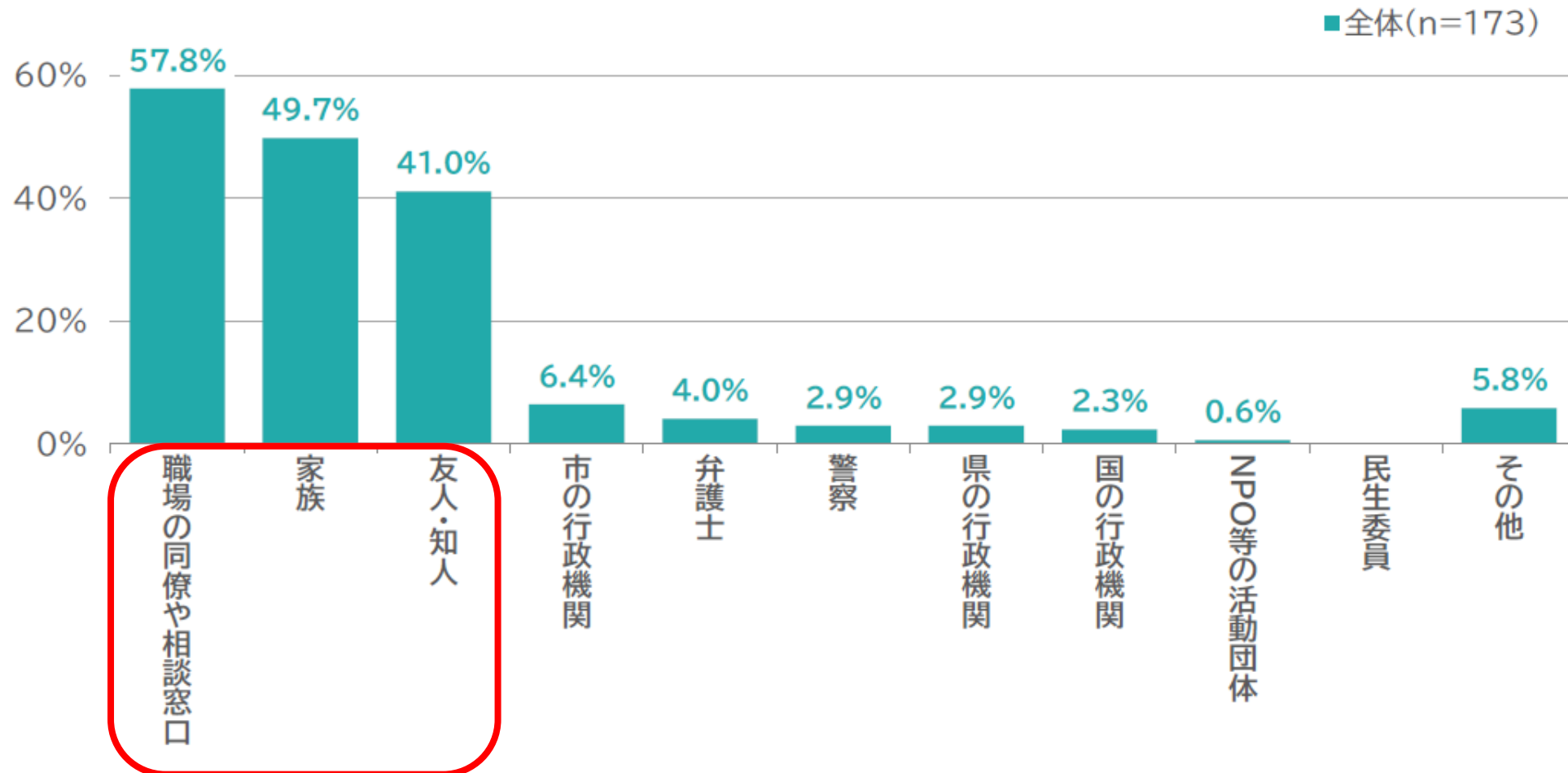
ドメスティック・バイオレンスの有無	全体(n=818)		男性(n=396)		女性(n=417)	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
受けたことがあり、誰かに相談した	38	4.6%	7	1.8%	30	7.2%
受けたことはあるが、誰にも相談しなかった	47	5.7%	19	4.8%	28	6.7%
受けたことはないが、身近で見聞きしたことはある	281	34.4%	130	32.8%	148	35.5%
受けたことや、身近で見聞きしたことはない	397	48.5%	211	53.3%	185	44.4%
わからない	47	5.7%	26	6.6%	21	5.0%
答えたくない	8	1.0%	3	0.8%	5	1.2%
合計	818	99.9%	396	100.1%	417	100.0%

どこに（誰に）相談しましたか。（当てはまるもの全て選択可）

« ハラスメントや DV の相談相手・窓口・機関 »

（Q23・Q24 で「受けたことがあり、だれか相談した」とした回答者）

（全体：n=173）（当てはまるもの全て選択可）

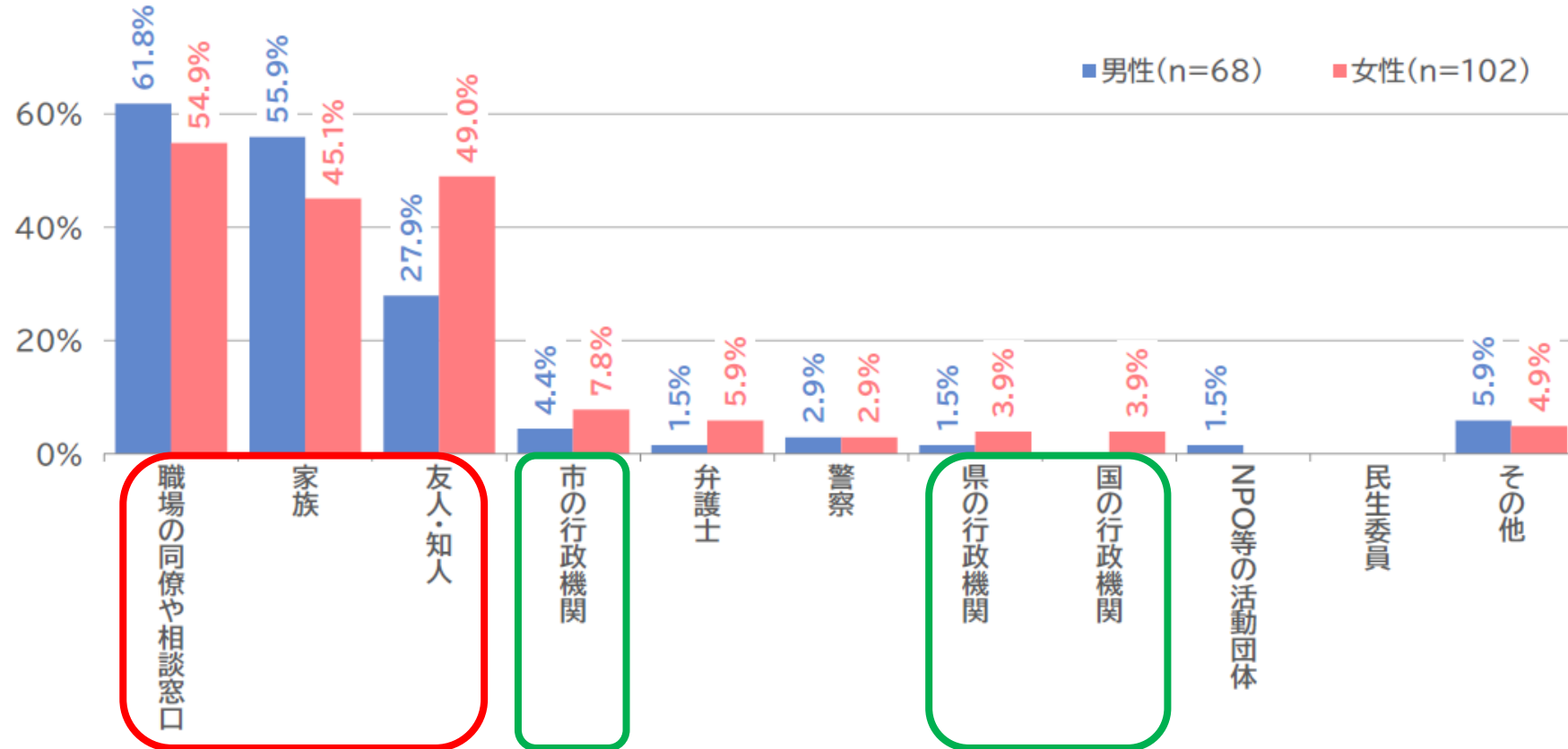


Q23 または Q24 で、「受けたことがあり、誰かに相談した」と回答された方に伺います。
どこに（誰に）相談しましたか。（当てはまるもの全て選択可）

◀ ハラスメントや DV の相談相手・窓口・機関 ▶

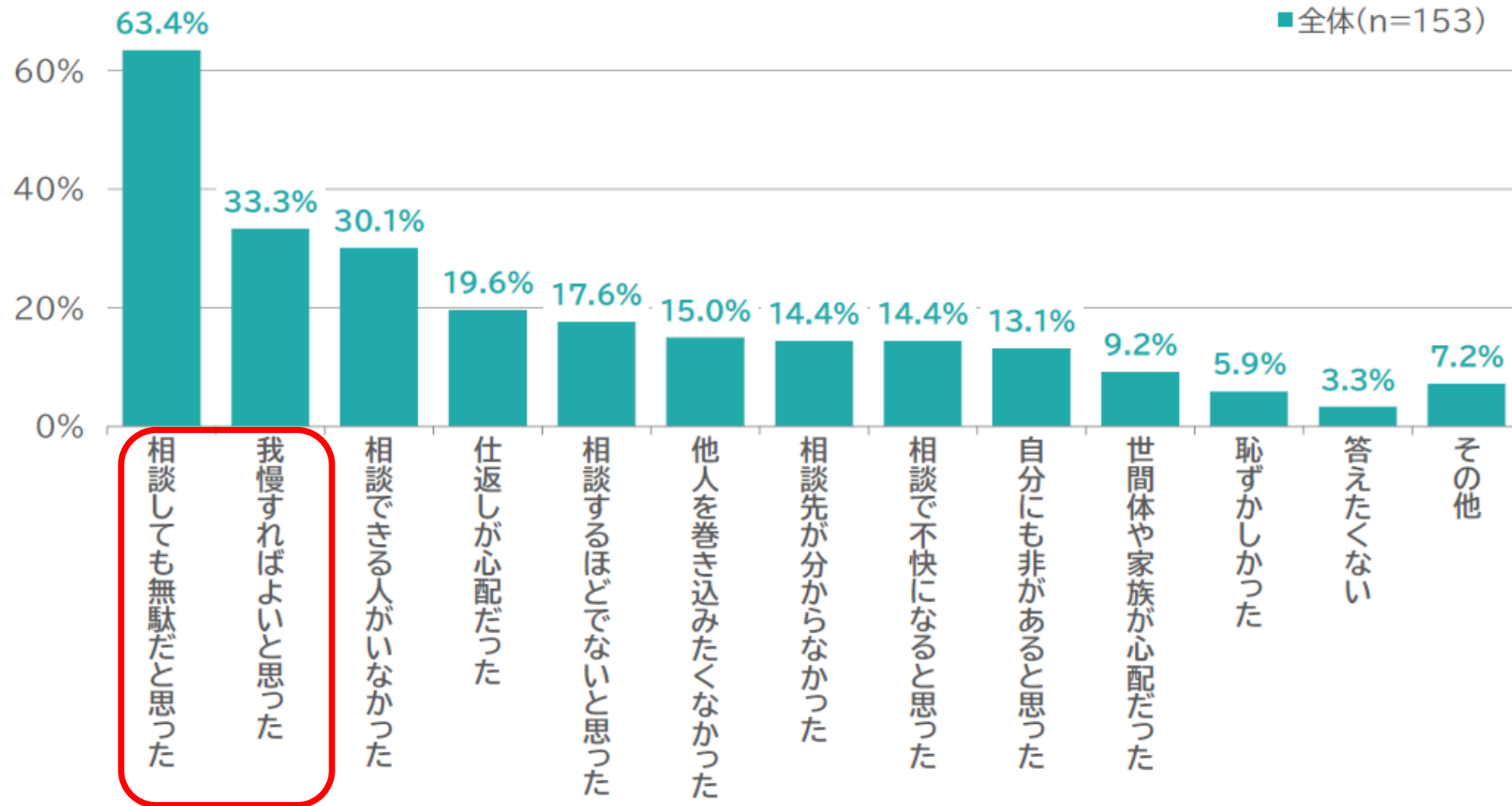
（Q23・Q24 で「受けたことがあり、だれか相談した」とした回答者）

（男性：n=68、女性：n=102）（当てはまるもの全て選択可）



相談先は性別によって傾向が異なり、男性は職場や家族、女性は友人・知人も含め幅広く相談している。一方で、行政機関（特に、「国」や「県」）への相談は低い。周知やアクセス等の改善が課題。

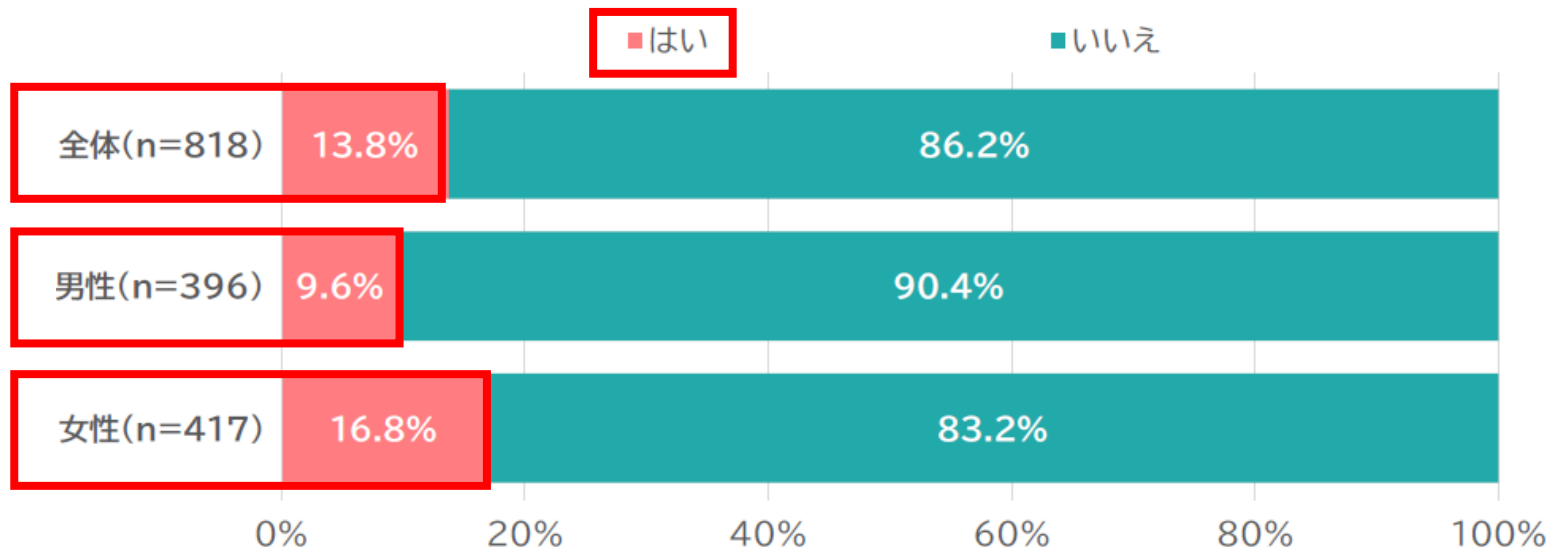
Q23 または Q24 で「受けたことはあるが、誰にも相談しなかった」と回答された方に伺います。相談しなかった理由は何ですか。（当てはまるもの全て選択可）



男女とも、「相談しても無駄」と考えた割合（63.4%）が最多。
次いで、「自分だけ我慢すればよい」（33.3%）と続く。

市では、性別や年齢、人種、国籍、障がいの有無にかかわらず、全ての人が互いに様々な違いを認め合い、尊重し、協力し合う多様性社会の実現を目指し、多様性に対する理解の促進に重点的に取り組んでいます。

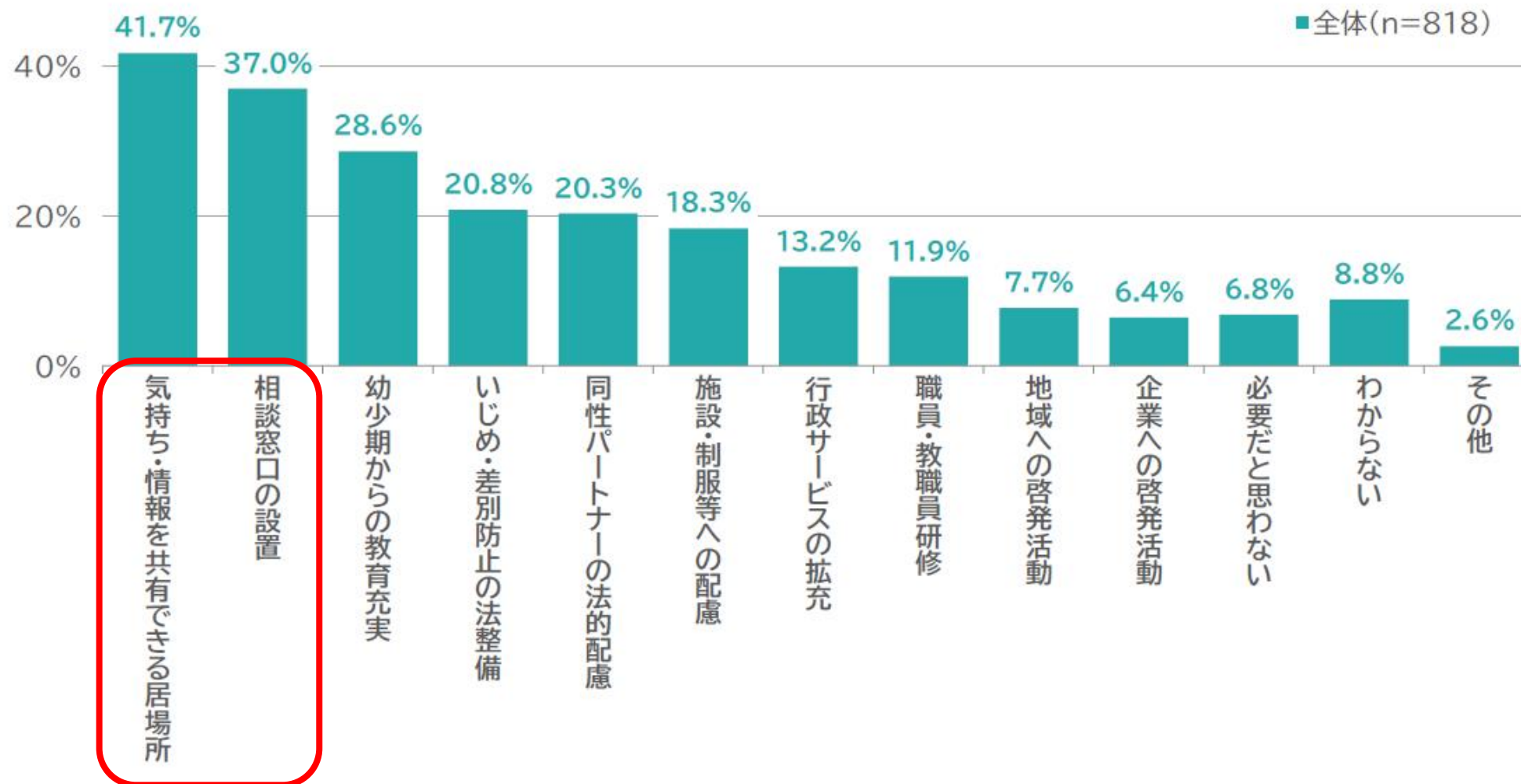
あなたは、今までに、出生時に割り当てられた性（体の性）、性自認（心の性）または性的指向（※）に違和感を持ったり、悩んだりしたことがありますか。また、身近に悩んでいる方を見たり、悩んでいることを聞いたりしましたか。（あてはまるもの1つ）



性別や性的指向に関する違和感・悩みは全体の13.8%
女性で高く、男性で低い傾向

性別や性的指向に関する違和感・悩みの経験状況	全体(n=818)		男性(n=396)		女性(n=417)	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
はい	113	13.8%	38	9.6%	70	16.8%
いいえ	705	86.2%	358	90.4%	347	83.2%
合計	818	100.0%	396	100.0%	417	100.0%

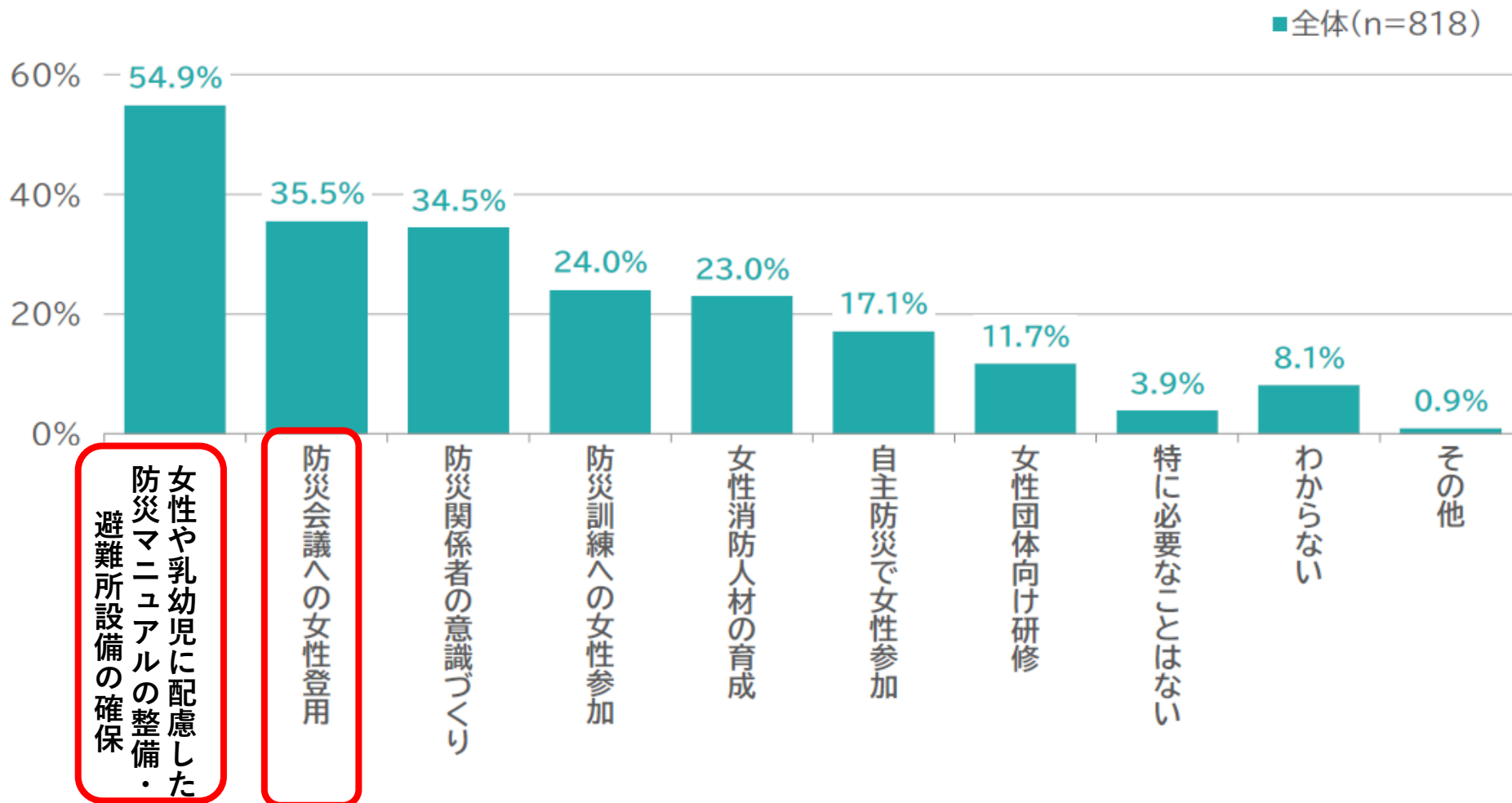
あなたは、LGBTQ（※）の方に関して、どのような意識啓発や、支援が必要だと思いますか。（3つまで選択可）



「気持ち・情報を共有できる居場所」や「相談窓口の設置」など安心して支援を受けられる環境整備へのニーズが高い

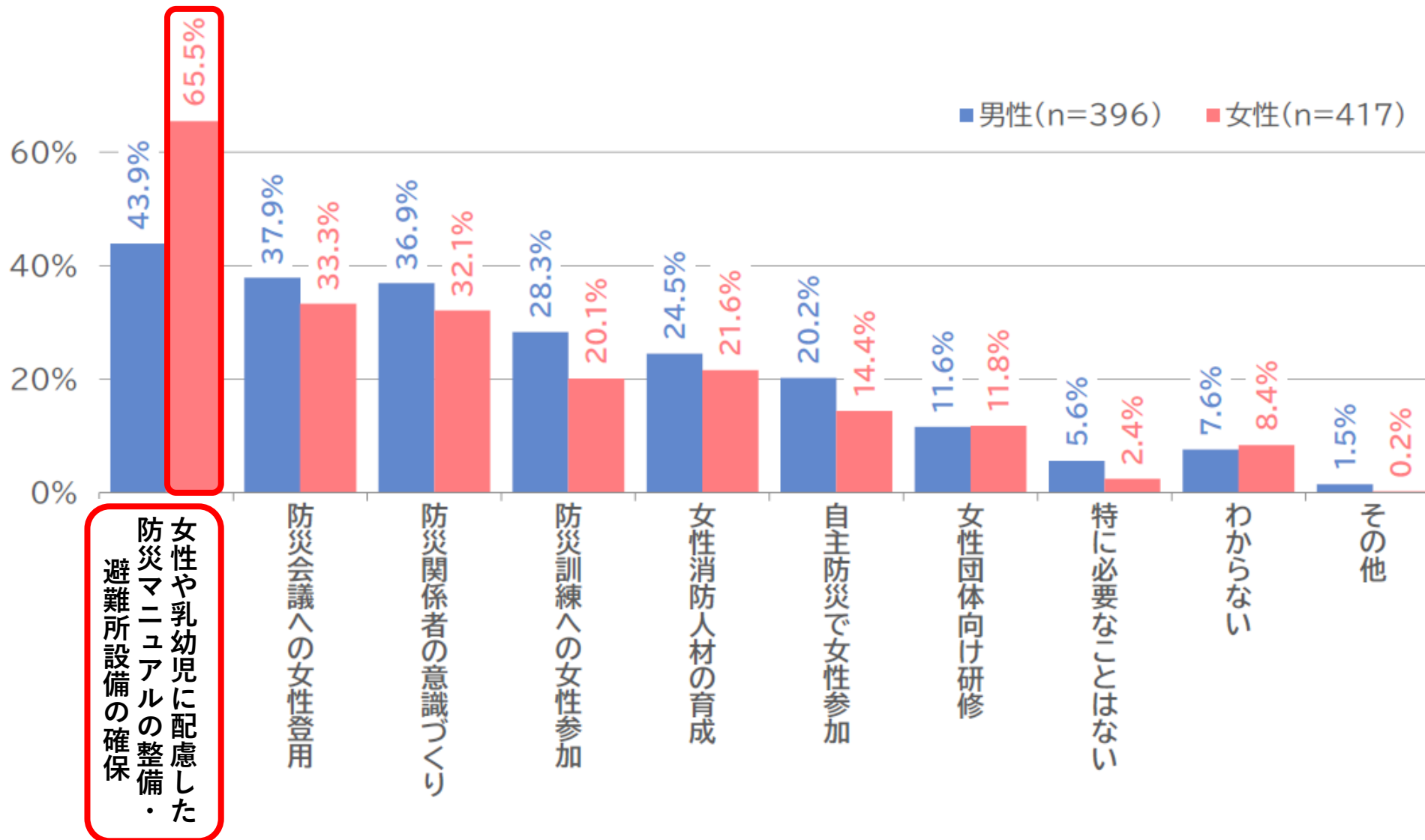
防災について

防災（復興を含む）活動に関して、男女共同参画の視点からどのようなことが必要だと思いますか。（3つまで選択可）



男女共同参画の視点から必要とされる防災活動では、「女性や乳幼児への配慮を盛り込んだマニュアルや避難所整備」が最も重視される（54.9%）。次いで、「防災会議への女性委員登用」と続く（35.5%）。

防災（復興を含む）活動に関して、男女共同参画の視点からどのようなことが必要だと思いますか。（3つまで選択可）

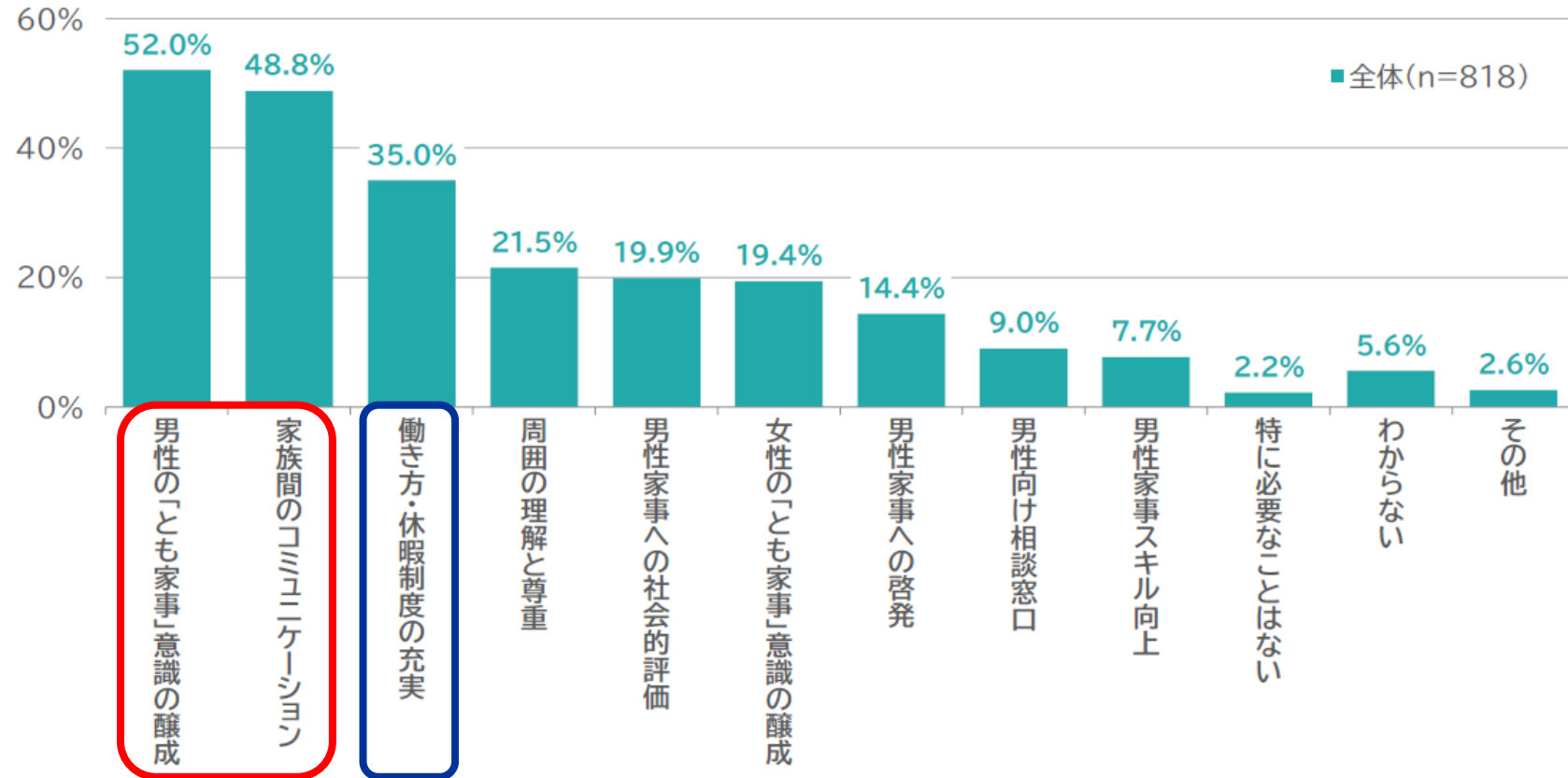


女性の「女性や乳幼児等に配慮した防災マニュアルの整備・避難所設備の確保」が65.5%と突出して高い。

その他（社会進出等について）

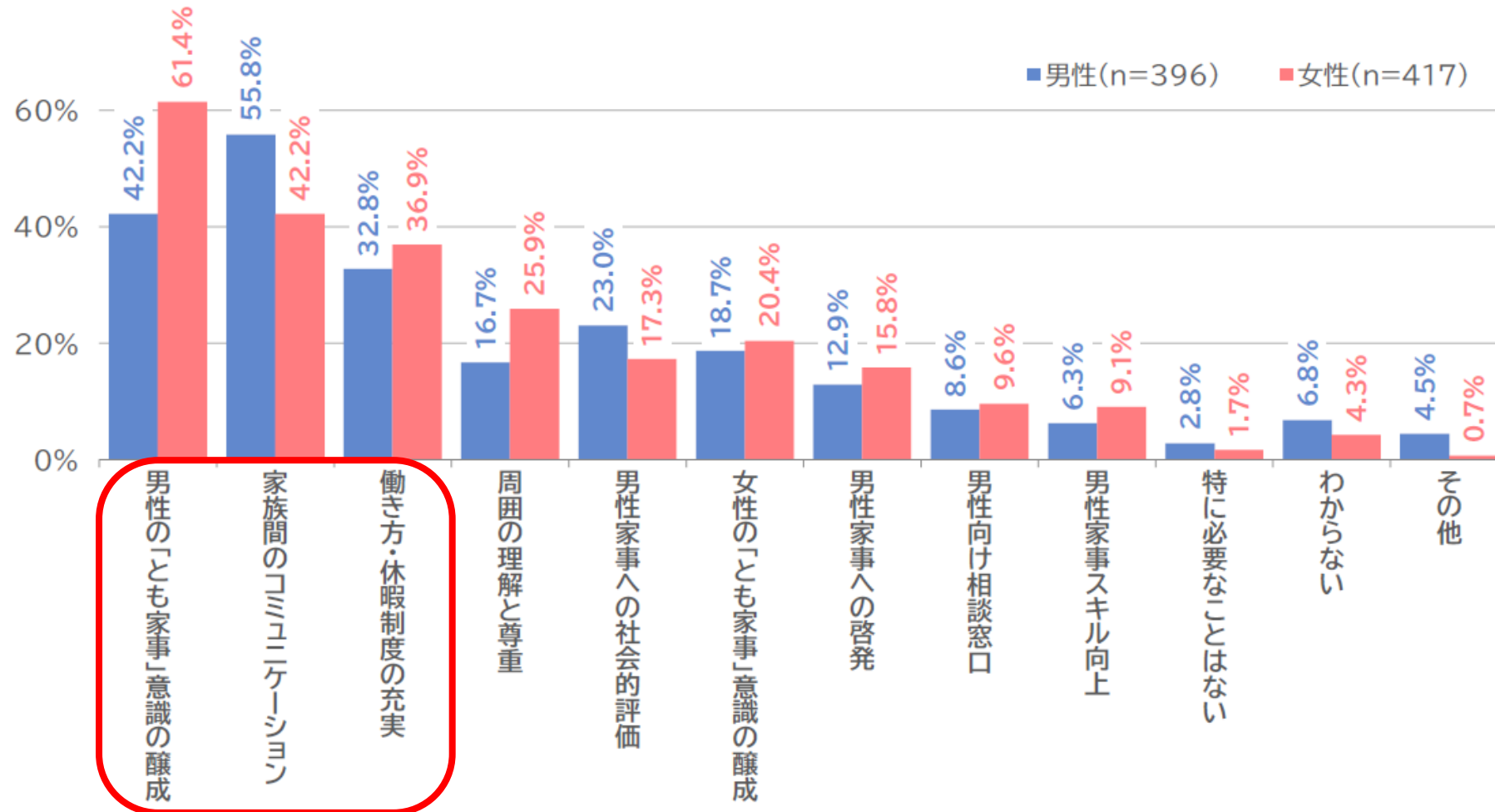
これからの社会で、男性が女性とともに家事や地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（3つまで選択可）

◀ 男性の積極的な家事・地域活動の参加に必要なこと ▶
（全体：n=818）（3つまで選択可）



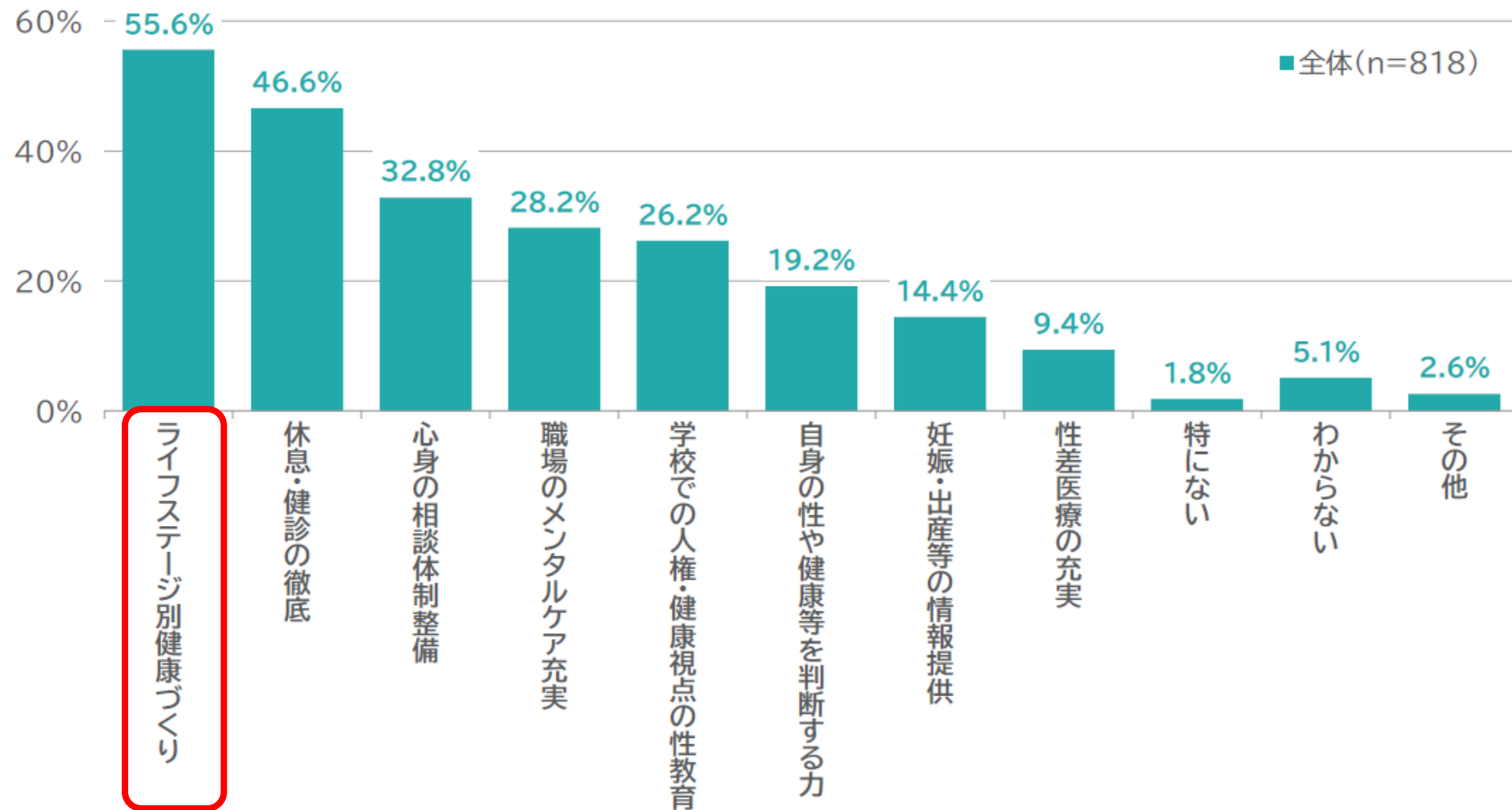
『男性の「とも家事」意識の醸成』や『家族間のコミュニケーション』などソフト面でのアプローチが必要とされる一方、
『働き方・休暇制度の充実』など制度面の整備も重視

これからの社会で、男性が女性とともに家事や地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（3つまで選択可）



男性は、「家族間のコミュニケーション」（55.8%）、次いで、『「とも家事」意識の醸成』（42.2%）を重要視。
 女性は、『男性の「とも家事」意識の醸成』が突出して高い（61.4%）。
 家庭内・職場・社会の複合的支援が必要とされる状況が浮き彫りとなった。

(3つまで選択可)



男女が生涯にわたり心身ともに健康であるためには、全体として、「ライフステージに応じた健康づくり」と日常的な健康管理が重視されている（55.6%）。

	市 民	高 校 生	事 業 所
調査対象	市内に在住または通勤 通学する18歳以上の者	市内の高校2年生 (特別支援学校含む)	従業者10人以上の 民営事業所
調査期間	9月1日～ 9月30日	9月1日～ 9月30日	10月15日～ 11月20日
設問数 (自由記述含む)	32問	19問	25問
対象者数	約260,000人	約2,450人	1,264事業所
回答数	818件	1,154件	179件
回答方法	LoGoフォーム	LoGoフォーム	LoGoフォーム

【高校生アンケート】

【合計 19 問】

- ① あなた自身のこと（1問）
- ② 男女共同参画に対する考え方について（2問）
- ③ 固定的性別役割分担について（1問）
- ④ 女性の活躍推進について（5問）
- ⑤ 人権について（9問）
- ⑥ 男女共同参画推進について（自由記述）

回答者の属性等について

1. あなた自身のことについてお伺いします。

①あなたの性別(自認する性)は

1	男性	589	51.0%
2	女性	542	47.0%
3	その他	23	2.0%

②あなたが小学生の頃、女性の保護者は働いていましたか。

1	働いていた	888	76.9%
2	働いていなかった	166	14.4%
3	覚えていない	83	7.2%
4	その他	17	1.5%

1. あなた自身のことについてお伺いします。

③ あなたが小学生の頃、家事・育児・子育ては主に誰が行っていましたか。

1	主として女性の保護者が行っていた	647	56.1%
2	主として男性の保護者が行っていた	19	1.6%
3	両方で協力して行っていた	404	35.0%
4	覚えていない	63	5.5%
5	その他	21	1.8%

1. あなた自身のことについてお伺いします。

④ 小学校から高校で、これまでに「男女共同参画」について学んだことはありますか

1	学んだことがある	662	57.4%
2	学んだことはない	98	8.5%
3	覚えていない	394	34.1%

⑤ (※④で1を選んだ人のみ)「男女共同参画」の内容について理解できましたか

1	理解できた	135	20.4%
2	ある程度理解できた	375	56.6%
3	あまり理解できなかった	72	10.9%
4	理解できなかった	7	1.1%
5	覚えていない	73	11.0%

男女共同参画について

2. 男女共同参画に対する考え方についてお伺いします。

男女共同参画
用語の認知度①・②

問2 次の言葉について知っていますか。または聞いたことがありますか。

		男性	女性	その他	合計
1	男女共同参画または男女共同参画社会	39 6.6%	98 18.1%	0 0.0%	137 11.9%
2	ポジティブ・アクション (積極的改善措置)	3 0.5%	2 0.4%	0 0.0%	5 0.4%
3	ジェンダー(社会的性別)	441 74.9%	465 85.8%	17 73.9%	923 80.0%
4	ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)	12 2.0%	3 0.6%	0 0.0%	15 1.3%
5	エンパワーメント(力をつけること)	43 7.3%	35 6.5%	3 13.0%	81 7.0%
6	DV(ドメスティック・バイオレンス)	381 64.7%	483 89.1%	13 56.5%	877 76.0%
7	ダイバーシティ(多様性)	405 68.8%	410 75.6%	12 52.2%	827 71.7%
8	LGBT (エルジービーティー。性的少数者)	405 68.8%	431 79.5%	16 69.6%	852 73.8%
9	アンコンシャス・バイアス (無意識の思い込み・偏見)	42 7.1%	31 5.7%	7 30.4%	80 6.9%

2. 男女共同参画に対する考え方についてお伺いします。

問3 次の①から④の分野で、男女は平等だと思いますか。

		男性の方が優遇されている	どちらかと言えば男性の方が優遇されている	男女平等である	どちらかと言えば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	合計
① 学校生活	男性	15 2.5%	31 5.3%	238 40.4%	110 18.7%	74 12.6%	121 20.5%	589 100.0%
	女性	8 1.5%	31 5.7%	267 49.3%	65 12.0%	9 1.7%	162 29.9%	542 100.0%
	その他	2 8.7%	1 4.3%	5 21.7%	0 0.0%	3 13.0%	12 52.2%	23 100.0%
	合計	25 2.2%	63 5.5%	510 44.2%	175 15.2%	86 7.5%	295 25.6%	1,154 100.0%
② 家庭生活	男性	25 4.2%	54 9.2%	307 52.1%	49 8.3%	38 6.5%	116 19.7%	589 100.0%
	女性	29 5.4%	83 15.3%	234 43.2%	47 8.7%	14 2.6%	135 24.9%	542 100.0%
	その他	4 17.4%	0 0.0%	7 30.4%	1 4.3%	3 13.0%	8 34.8%	23 100.0%
	合計	58 5.0%	137 11.9%	548 47.5%	97 8.4%	55 4.8%	259 22.4%	1,154 100.0%

2. 男女共同参画に対する考え方についてお伺いします。

男女共同参画
男女平等感②

問3 次の①から④の分野で、男女は平等だと思いますか。

		男性の方が優遇されている	どちらかと言えば男性の方が優遇されている	男女平等である	どちらかと言えば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	合計
③ 法律や制度	男性	20	39	206	96	86	142	589
		3.4%	6.6%	35.0%	16.3%	14.6%	24.1%	100.0%
	女性	36	84	154	41	6	221	542
		6.6%	15.5%	28.4%	7.6%	1.1%	40.8%	100.0%
	その他	3	0	5	2	4	9	23
	13.0%	0.0%	21.7%	8.7%	17.4%	39.1%	100.0%	
	合計	59	123	365	139	96	372	1,154
		5.1%	10.7%	31.6%	12.0%	8.3%	32.2%	100.0%
④ 社会全体	男性	39	73	155	105	88	129	589
		6.6%	12.4%	26.3%	17.8%	14.9%	21.9%	100.0%
	女性	54	134	95	38	12	209	542
		10.0%	24.7%	17.5%	7.0%	2.2%	38.6%	100.0%
	その他	1	3	2	4	5	8	23
	4.3%	13.0%	8.7%	17.4%	21.7%	34.8%	100.0%	
	合計	94	210	252	147	105	346	1,154
		8.1%	18.2%	21.8%	12.7%	9.1%	30.0%	100.0%

3. 固定的性別役割分担についてお伺いします。

男女共同参画
固定的性別役割分担①・②

問4 次の①から③のような意見について、どのように考えますか。

		そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	合計
① 女らしい振る舞い、男らしい振る舞いをした方がよい	男性	119 20.2%	161 27.3%	102 17.3%	207 35.1%	589 100.0%
	女性	37 6.8%	123 22.7%	140 25.8%	242 44.6%	542 100.0%
	その他	2 8.7%	1 4.3%	3 13.0%	17 73.9%	23 100.0%
	合計	158 13.7%	285 24.7%	245 21.2%	466 40.4%	1,154 100.0%
② 女性も男性も役割分担をして、家事・育児に積極的に関わるべきだ	男性	356 60.4%	150 25.5%	30 5.1%	53 9.0%	589 100.0%
	女性	397 73.2%	109 20.1%	16 3.0%	20 3.7%	542 100.0%
	その他	12 52.2%	6 26.1%	0 0.0%	5 21.7%	23 100.0%
	合計	765 66.3%	265 23.0%	46 4.0%	78 6.8%	1,154 100.0%
③ 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ	男性	41 7.0%	87 14.8%	165 28.0%	296 50.3%	589 100.0%
	女性	5 0.9%	53 9.8%	144 26.6%	340 62.7%	542 100.0%
	その他	2 8.7%	3 13.0%	4 17.4%	14 60.9%	23 100.0%
	合計	48 4.2%	143 12.4%	313 27.1%	650 56.3%	1,154 100.0%

女性活躍推進について

4. 女性の活躍推進についてお伺いします。

問5 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたの考えにもっとも近いものを1つ選んでください。

長短はあるものの、男女ともに6割超が、女性が職業をもつことについて賛成

		男性	女性	その他	合計
1	ずっと職業を持ち続ける方がよい	206 35.0%	263 48.5%	7 30.4%	476 41.2%
2	結婚するまでは職業をもつ方がよい	49 8.3%	32 5.9%	2 8.7%	83 7.2%
3	子どもができるまでは職業をもつ方がよい	110 18.7%	79 14.6%	0 0.0%	189 16.4%
4	女性は職業をもたない方がよい	12 2.0%	1 0.2%	0 0.0%	13 1.1%
5	わからない	191 32.4%	142 26.2%	10 43.5%	343 29.7%
6	その他(本人の自由、女性というくくりではなくそれぞれがやりたいようにすればいい 等)	21 3.6%	25 4.6%	4 17.4%	50 4.3%

4. 女性の活躍推進についてお伺いします。

問6 女性が職業をもち続ける方がよいと考えた理由について、1つ選んでください。

		男性(206)	女性(263)	その他(7)	合計
1	能力を活かした方がよいから	77 37.4%	51 19.4%	2 28.6%	130 27.3%
2	社会とより関わることができるから	39 18.9%	44 16.7%	1 14.3%	84 17.6%
3	経済的に自立できるから	71 34.5%	146 55.5%	3 42.9%	220 46.2%
4	精神的に自立できるから	9 4.4%	12 4.6%	0 0.0%	21 4.4%
5	わからない	7 3.4%	5 1.9%	1 14.3%	13 2.7%
6	その他(経済的に一人では賄う事ができないから、お金はいくらあっても困らないしやりたいことがあるから 等)	3 1.5%	5 1.9%	0 0.0%	8 1.7%

4. 女性の活躍推進についてお伺いします。

問8 あなたが将来家庭を持ったとしたら、①家事、②育児を主に誰がするのがよいと考えますか。

		夫と妻 で分担	主に妻	主に夫	夫と妻以 外の家族	外部サー ビスを利用	その他	合計
①家事	男性	509	42	14	3	5	16	589
		86.4%	7.1%	2.4%	0.5%	0.8%	2.7%	100.0%
	女性	489	35	3	1	5	9	542
		90.2%	6.5%	0.6%	0.2%	0.9%	1.7%	100.0%
	その他	16	0	1	0	1	5	23
		69.6%	0.0%	4.3%	0.0%	4.3%	21.7%	100.0%
合計	1014	77	18	4	11	30	1,154	
	87.9%	6.7%	1.6%	0.3%	1.0%	2.6%	100.0%	
②育児	男性	514	51	4	4	1	15	589
		87.3%	8.7%	0.7%	0.7%	0.2%	2.5%	100.0%
	女性	485	34	5	2	6	10	542
		89.5%	6.3%	0.9%	0.4%	1.1%	1.8%	100.0%
	その他	14	3	1	0	1	4	23
		60.9%	13.0%	4.3%	0.0%	4.3%	17.4%	100.0%
合計	1013	88	10	6	8	29	1,154	
	87.8%	7.6%	0.9%	0.5%	0.7%	2.5%	100.0%	

4. 女性の活躍推進についてお伺いします。

問9 あなたが、将来家庭(子ども)を持つとしたら、子育ての方針について、どのように考えますか。

		男性	女性	その他	合計
1	男の子らしさ、女の子らしさにとらわれず、その子の個性を尊重して育てる	376 63.8%	423 78.0%	13 56.5%	812 70.4%
2	男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる	84 14.3%	39 7.2%	1 4.3%	124 10.7%
3	わからない	121 20.5%	76 14.0%	6 26.1%	203 17.6%
4	その他(子どもが生きたいように生かせる、道徳などをしっかり理解した上でその子のなりたいようになってほしい等)	8 1.4%	4 0.7%	3 13.0%	15 1.3%

人権・DVについて

5. 人権・DVについてお聞きします。

問10 あなたは、次のような人権侵害や性被害(※)を受けたり、身近で見聞きしたことがありますか。

種別	性別	自分が 受けた	身近で 見聞き した	マスコミ等 で聞いた ことあり	知らない (聞いたこ とがない)	答えたくない	合計
① セクハラ	男性	4	45	271	243	26	589
		0.7%	7.6%	46.0%	41.3%	4.4%	100.0%
	女性	21	52	289	156	24	542
		3.9%	9.6%	53.3%	28.8%	4.4%	100.0%
	その他	1	3	5	8	6	23
		4.3%	13.0%	21.7%	34.8%	26.1%	100.0%
	合計	26	100	565	407	56	1,154
		2.3%	8.7%	49.0%	35.3%	4.9%	100.0%
② ストーカー	男性	7	56	266	237	23	589
		1.2%	9.5%	45.2%	40.2%	3.9%	100.0%
	女性	12	56	292	164	18	542
		2.2%	10.3%	53.9%	30.3%	3.3%	100.0%
	その他	2	3	3	10	5	23
		8.7%	13.0%	13.0%	43.5%	21.7%	100.0%
	合計	21	115	561	411	46	1,154
		1.8%	10.0%	48.6%	35.6%	4.0%	100.0%

5. 人権・DVについてお聞きします。

問10 あなたは、次のような人権侵害や性被害(※)を受けたり、身近で見聞きしたことがありますか。

種別	性別	自分が 受けた	身近で 見聞き した	マスコミ等 で聞いた ことあり	知らない (聞いたこ とがない)	答えたくない	合計
③ デートDV	男性	0	25	216	324	24	589
		0.0%	4.2%	36.7%	55.0%	4.1%	100.0%
	女性	0	37	263	226	16	542
		0.0%	6.8%	48.5%	41.7%	3.0%	100.0%
	その他	0	2	4	12	5	23
	0.0%	8.7%	17.4%	52.2%	21.7%	100.0%	
	合計	0	64	483	562	45	1,154
		0.0%	5.5%	41.9%	48.7%	3.9%	100.0%
④ SNS上の書き込みセクハラ	男性	9	62	243	256	19	589
		1.5%	10.5%	41.3%	43.5%	3.2%	100.0%
	女性	11	83	248	184	16	542
		2.0%	15.3%	45.8%	33.9%	3.0%	100.0%
	その他	2	1	3	11	6	23
	8.7%	4.3%	13.0%	47.8%	26.1%	100.0%	
	合計	22	146	494	451	41	1,154
		1.9%	12.7%	42.8%	39.1%	3.6%	100.0%

5. 人権・DVについてお聞きします。

問11 あなたはそのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

		男性(20)	女性(44)	その他(5)	合計(69)
①	相談した(親、学校の先生、友達、ネットの友達)	7	24	1	32
		35.0%	54.5%	20.0%	46.4%
②	どこ(誰)にも相談しなかった・できなかった	9	5	2	16
		45.0%	11.4%	40.0%	23.2%
③	答えたくない	4	9	0	13
		20.0%	20.5%	0.0%	18.8%

5. 人権・DVについてお聞きします。

問12 相談しなかった・できなかつたのはなぜですか。

		男性(9)	女性(5)	その他(2)	合計(16)
①	身近に相談できる人がいなかったから	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
②	相談窓口がわからなかったから	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	1 6.3%
③	相談しても無駄だと思ったから	2 22.2%	3 60.0%	0 0.0%	5 31.3%
④	相談したことが分かると仕返しされと思ったから	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
⑤	自分さえ我慢すればよいと思ったから	1 11.1%	2 40.0%	2 100.0%	5 31.3%
⑥	相談することで自分が不快な思いをすと思ったから	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
⑦	世間体が悪いから、または、家族に迷惑をかける(家族に申し訳ない)と思ったから	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
⑧	自分にも悪いところがあるから	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
⑨	恥ずかしかったから	1 11.1%	1 20.0%	0 0.0%	2 12.5%
⑩	相談して他人を巻き込むのが嫌だったから	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	2 12.5%
⑪	相談するほどのことではないと思ったから	6 66.7%	3 60.0%	0 0.0%	9 56.3%
⑫	答えたくない	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	1 6.3%
⑬	その他(めんどくさかった)	1 11.1%	0 0.0%	0 0.0%	1 6.3%

5. 人権・DVについてお聞きします。

問13 あなたは、今までに、出生時に割り当てられた性(体の性)、性自認(心の性)または性的指向(※)に違和感を持ったり、悩んだりしたことがありますか。

		男性	女性	その他	合計
①	はい	13	29	7	49
		2.2%	5.4%	30.4%	4.2%
②	いいえ	528	467	7	1002
		89.6%	86.2%	30.4%	86.8%
③	答えたくない	48	46	9	103
		8.1%	8.5%	39.1%	8.9%

問14 あなたはそのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

		男性(13)	女性(29)	その他(7)	合計
①	相談した	4	12	2	18
		30.8%	41.4%	28.6%	36.7%
②	どこ(誰)にも相談しなかった・できなかった	7	9	3	19
		53.8%	31.0%	42.9%	38.8%
③	答えたくない	2	8	2	12
		15.4%	27.6%	28.6%	24.5%

5. 人権・DVについてお聞きします。

問16 あなたは、身近に、自分の出生時に割り当てられた性(体の性)、性自認(心の性)または性的指向について、悩んでいる方を見たり、聞いたりしたことはありますか。

		男性	女性	その他	合計
①	はい	41	113	7	161
		7.0%	20.8%	30.4%	14.0%
②	いいえ	497	387	6	890
		84.4%	71.4%	26.1%	77.1%
③	答えたくない	51	42	10	103
		8.7%	7.7%	43.5%	8.9%

5. 人権・DVについてお聞きします。

問18 あなたは、LGBTQなど性的少数者の方々にに関して、どのような意識啓発や支援が必要だと思いますか。

		男性	女性	その他	合計
①	相談できる窓口の設置	272	215	3	490
		46.2%	39.7%	13.0%	42.5%
②	気持ちや情報を共有できる居場所づくり	193	254	7	454
		32.8%	46.9%	30.4%	39.3%
③	いじめや差別を禁止する法律や条例の制定	175	206	5	386
		29.7%	38.0%	21.7%	33.4%
④	行政職員や教職員に対する研修の実施(※1)	38	32	1	71
		6.5%	5.9%	4.3%	6.2%
⑤	企業等に対する啓発活動の実施	28	5	0	33
		4.8%	0.9%	0.0%	2.9%
⑥	地域住民に対する啓発活動の実施	18	16	0	34
		3.1%	3.0%	0.0%	2.9%
⑦	幼少期からの教育や就学期中の研修の充実(※1)	34	52	1	87
		5.8%	9.6%	4.3%	7.5%
⑧	更衣室やトイレ、制服など男女で区別されているものに対する配慮	60	118	6	184
		10.2%	21.8%	26.1%	15.9%
⑨	同性同士のパートナーやその家族であることを証明する行政の証明書等の提示による行政等サービスの拡充(※2)	33	57	4	94
		5.6%	10.5%	17.4%	8.1%
⑩	同性同士のパートナーやその家族も、法律上の夫婦や家族と同等に扱うこと	53	143	4	200
		9.0%	26.4%	17.4%	17.3%
⑪	マジョリティであるシスジェンダー〔出生時に割り当てられた性(体の性)と性自認(心の性)が合致している人〕の意識変容・行動変容(努力や苦勞なしに社会的に優位な	33	21	3	57
		5.6%	3.9%	13.0%	4.9%

	市 民	高 校 生	事 業 所
調査対象	市内に在住または通勤通学する18歳以上の者	市内の高校2年生 (特別支援学校含む)	従業者10人以上の 民営事業所
調査期間	9月1日～ 9月30日	9月1日～ 9月30日	10月15日～ 11月20日
設問数 (自由記述含む)	32問	19問	25問
対象者数	約260,000人	約2,450人	1,264事業所
回答数	818件	1,110件	179件
回答方法	LoGoフォーム	LoGoフォーム	LoGoフォーム

【事業所アンケート】

【合計 25 問】

- ① 事業所について（1 問）
- ② 労働時間や有給休暇取得状況について（5 問）
- ③ 育児・介護支援制度について（4 問）
- ④ 女性活躍推進について（3 問）
- ⑤ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について（8 問）
- ⑥ ハラスメント対策について（2 問）
- ⑦ 市（行政）に望む支援について（2 問）

【事業所アンケート】

調査結果から見えた主な課題

調査結果から見えた主な課題

有給労働時間 給付休暇

- 突発的業務や業務量の多さで所定外労働が発生しやすい
- 中小規模事業所では有給休暇取得の制約や運用上の課題が残る

育児・ 介護支援

- 制度整備は進むが男性取得率低い
- 次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画策定が小規模事業所で遅れる

ハラスメント 対策

- 判断基準の曖昧さやプライバシー確保の難しさで運用が困難
- 若手とベテラン間の仕事観相違による潜在的トラブル

女性 推進活躍

- 女性管理職比率や希望者の少なさ
- 家庭生活負担の偏重が活躍を阻害
- 行動計画策定率が低く、小規模事業所で遅れが顕著

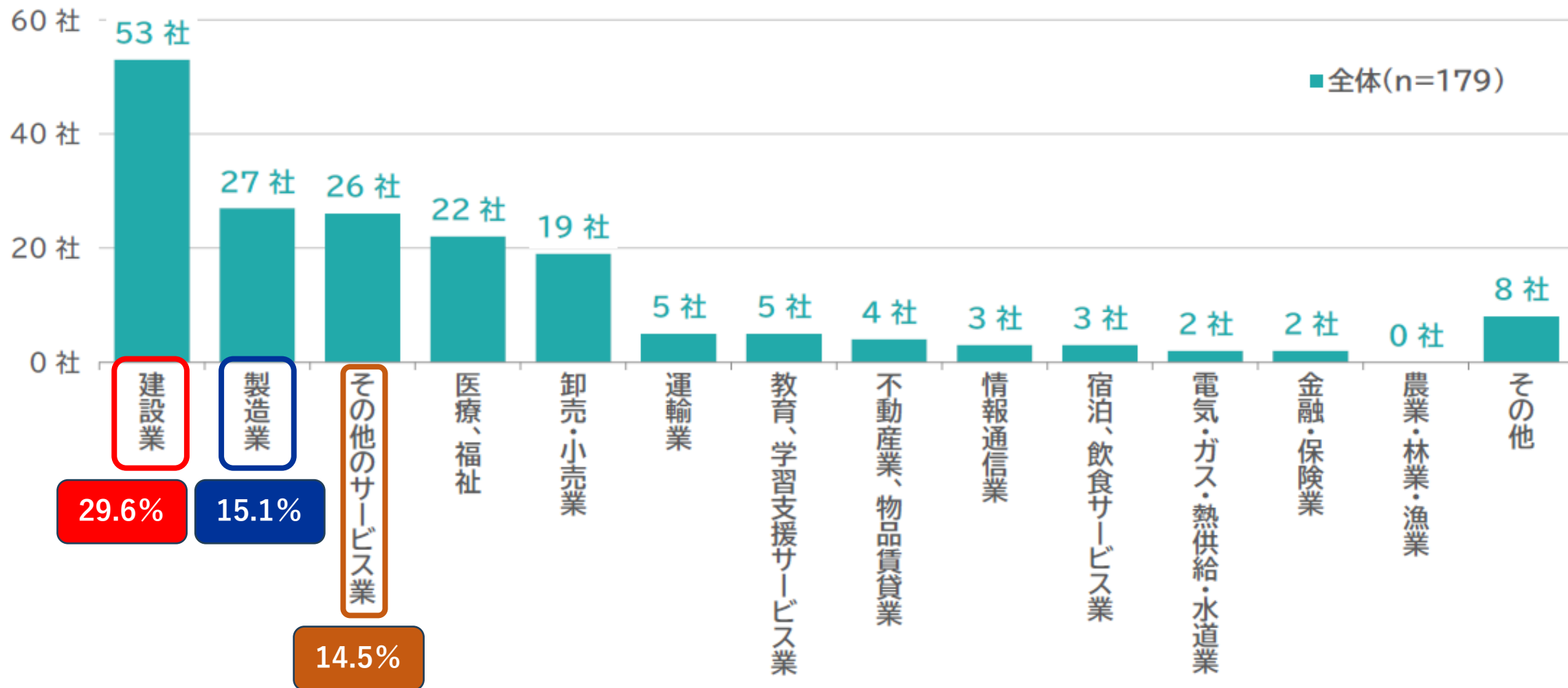
バラ ライ ンフ クス ス

- 概念認知は進むが人手不足や突発業務により具体的取組が困難
- リソース不足が実施の障壁

市 支 援 望 む

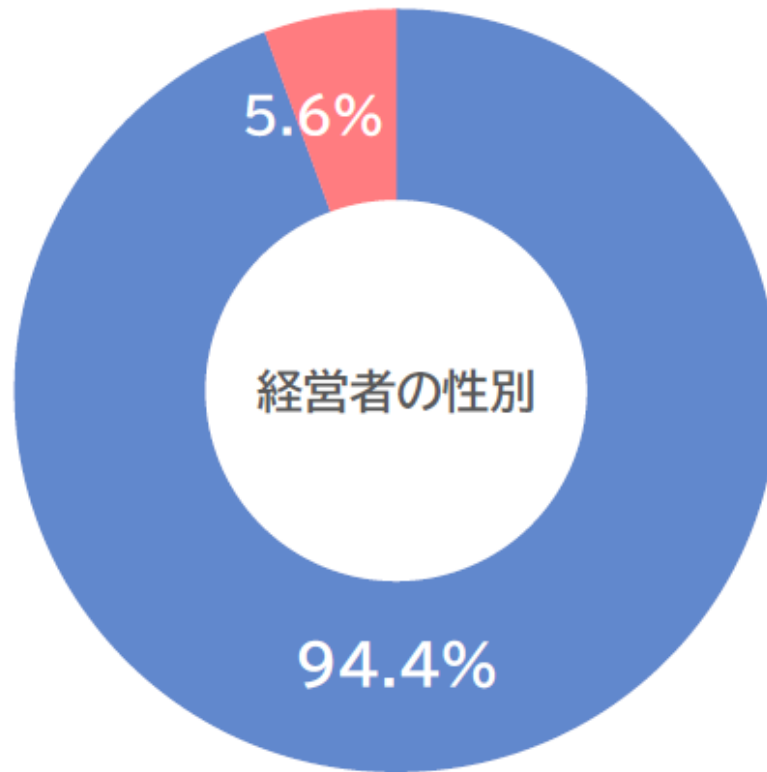
- 成功事例の共有や専門家伴走型支援への期待
- 中小規模事業所で「取り組みたいが実施が難しい」という切実な声

回答事業所の業種等について



回答事業所の業種は、「建設業」が53社（29.6%）で最も多く、次いで「製造業」27社（15.1%）、「その他のサービス業」26社（14.5%）となっており、幅広い業種の事業所から回答が得られた。

◀ 経営者(事業主)の性別 ▶ (全体:n=179) (単回答)

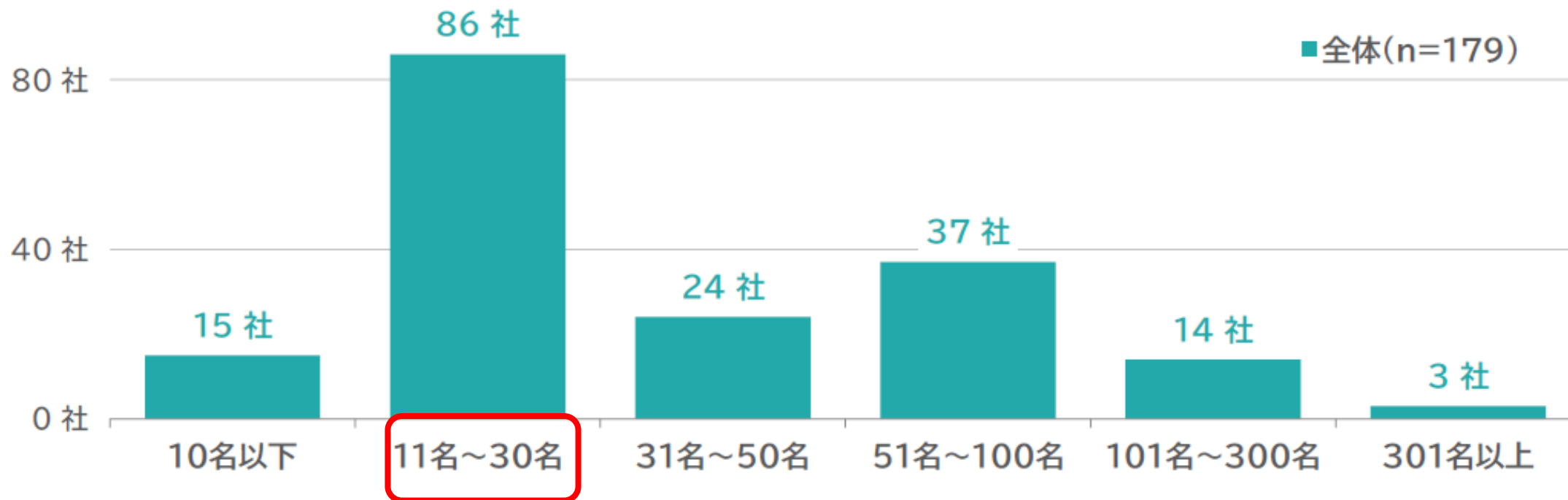


男性 169社 (94.4%)

女性 10社 (5.6%)

経営者の性別は、「男性」が169社(94.4%)と大半を占め、「女性」は10社(5.6%)にとどまっており、男性経営者が中心となっている状況がみられる。

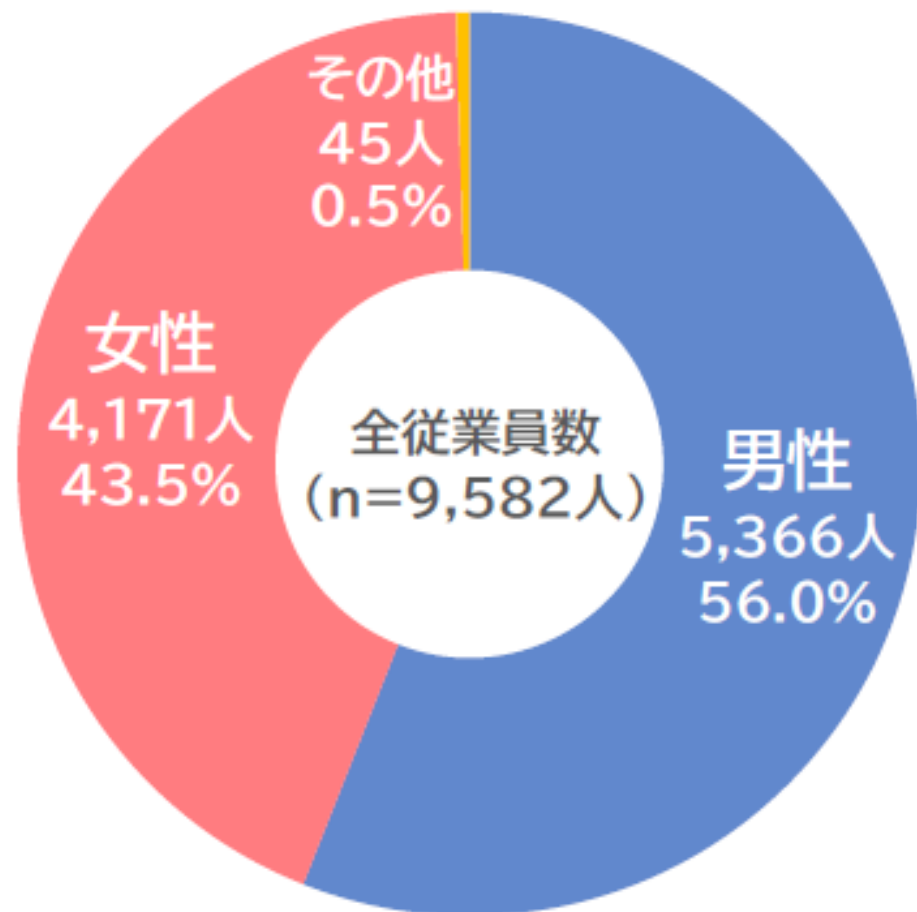
◀ 従業員数 ▶（全体：n=179）



回答事業所の従業員数は、「11名~30名」が最も多く86社（48.0%）

中小規模の事業所からの回答が多い傾向がみられる。

≪ 従業員の男女比 ≫（従業員全数：n=9,582人）

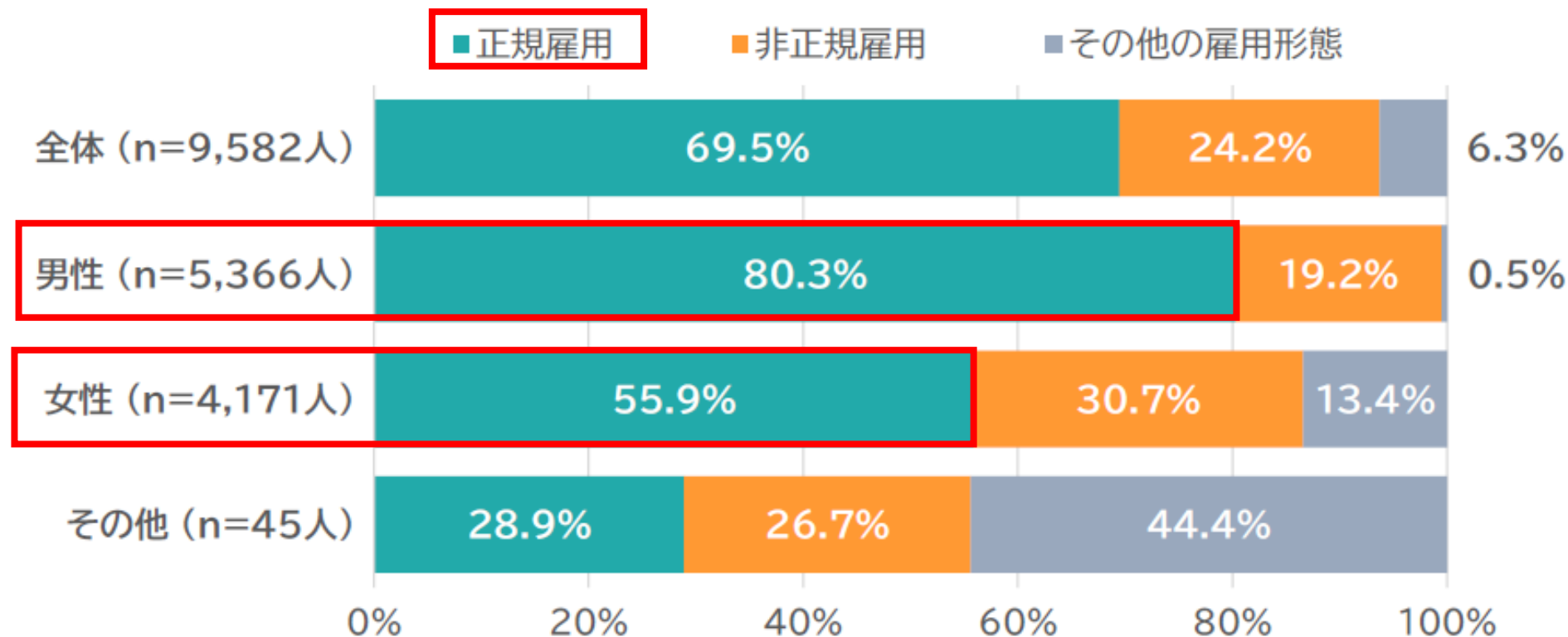


常用従業員9,582人のうち、

- ・ 男性は、5,366人（56.0%）
- ・ 女性は、4,171人（43.5%）
- ・ その他は、45人（0.5%） を占める。

<< 従業員の雇用形態 >>

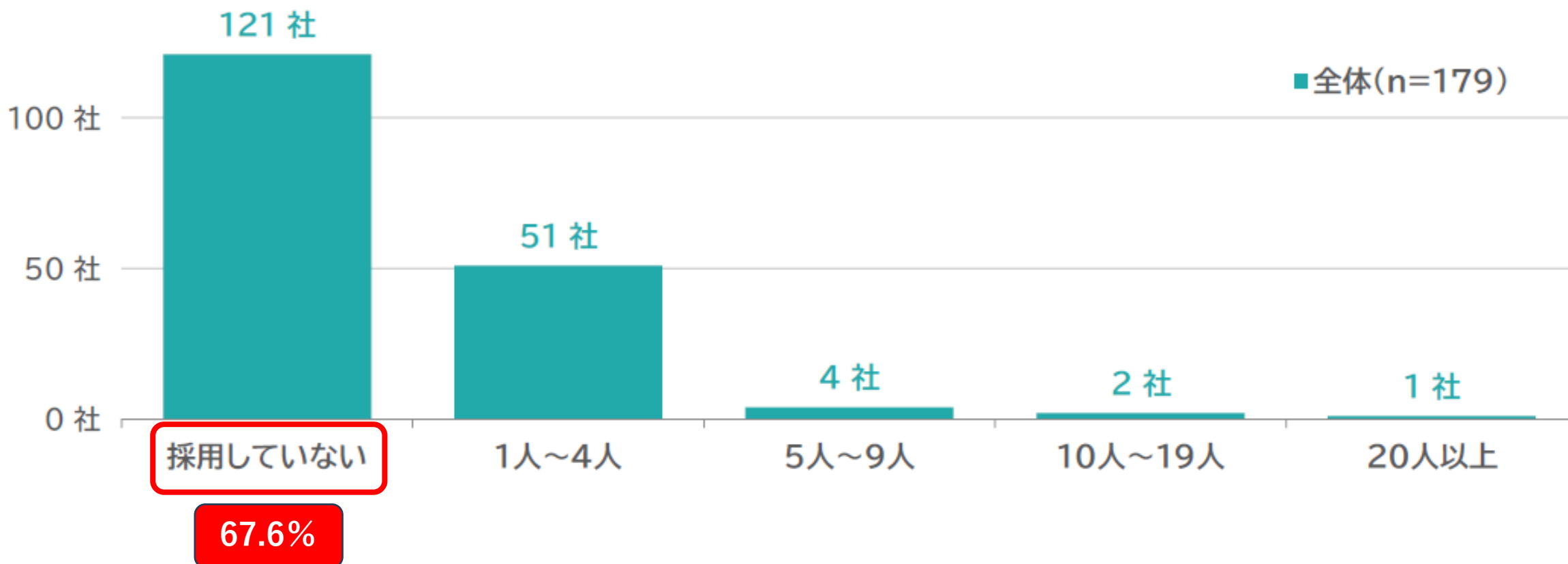
(従業員全数：n=9,582人、男性：n=5,366人、女性：n=4,171人、その他：45人)



性別によって雇用形態に違いが見られる。

男性の「正規雇用」80.3%に対し、女性の「正規雇用」は、55.9%に留まる。
女性は非正規雇用やその他の雇用形態の割合が比較的高い傾向がみられる。

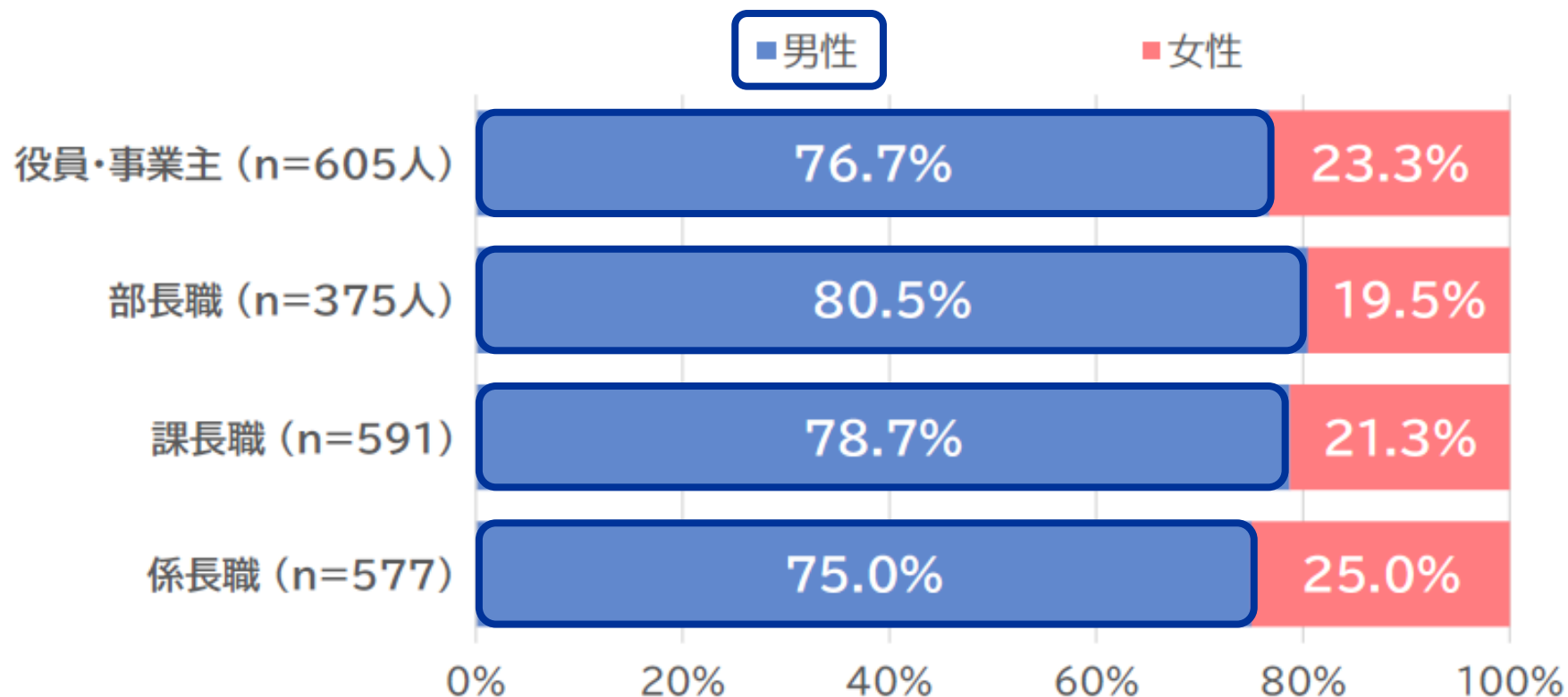
◀ 障がい者雇用数 ▶（全体：n=179）



障がい者雇用数について、121社（67.6%）が「雇用していない」としており、未雇用の事業所が多い。1～4人雇用は51社（28.5%）で、雇用を行う場合は少人数が中心となっている。

《 管理職等の男女比 》

(役員・事業主：n=605人、部長職：n=375人、課長職：n=591人、係長職：577人)



管理職は全体で男性が多数を占め、役員・部長・課長・係長いずれの職位でも男性が中心。
女性管理職の割合は比較的低い状況となっている。

労働時間や有給休暇取得状況

正規従業員において、把握している直近の1ヶ月当たりの平均残業時間は、概ね何時間ですか。(あてはまるもの1つ)

《 直近1ヶ月の平均残業時間 》 (全体：n=179) (単回答)

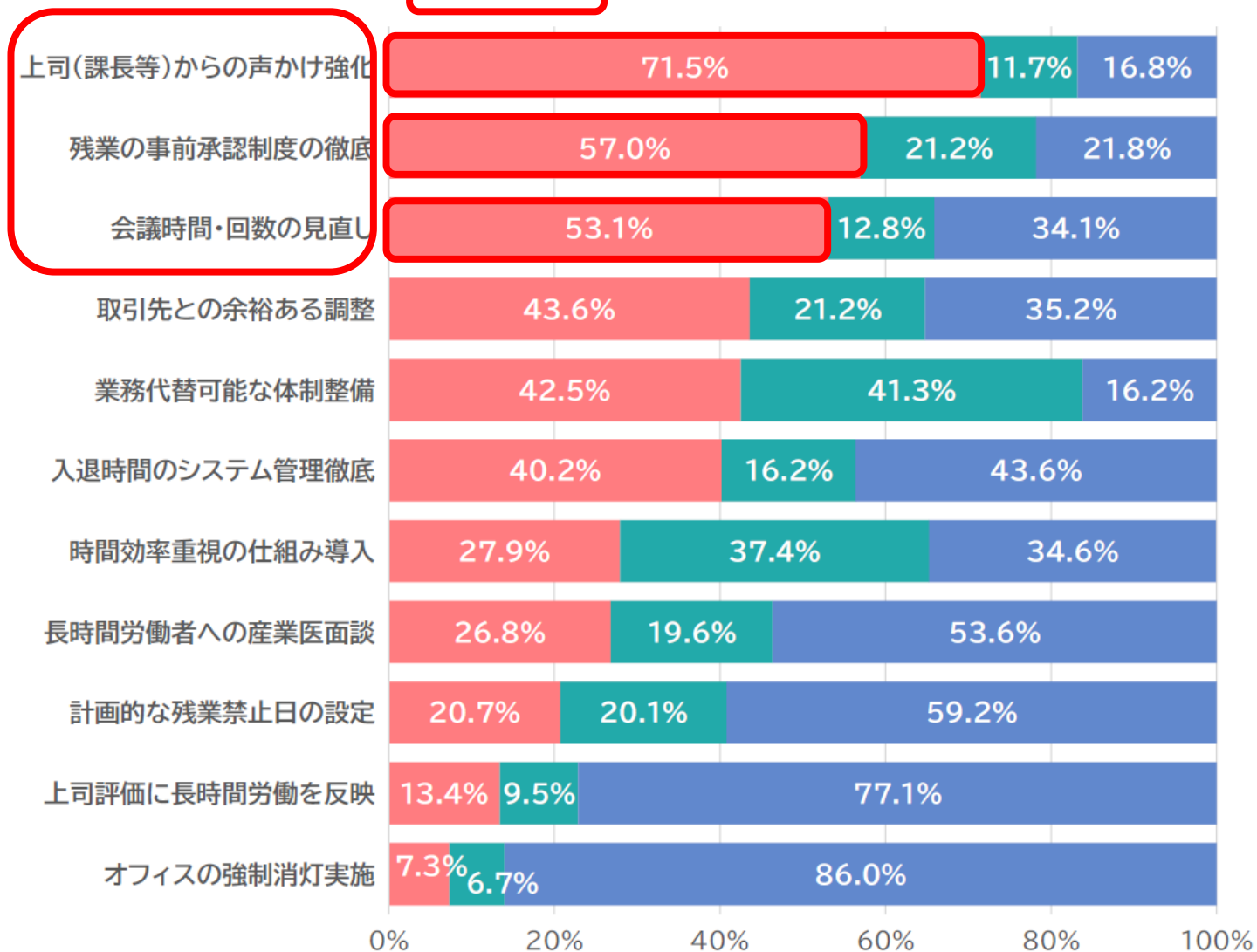


平均残業時間は「1~9時間」が80社 (44.7%) で最も多く、次いで「10~19時間」が52社 (29.1%) 残業なし (0時間) も一定数あり。**20時間未満の残業が、全体の8割超を占める。**

(項目ごとに1つずつ選択)

◀ 長時間労働の是正や解消の取組み状況 ▶ (全体：n=179) (単回答)

■ 導入している ■ 導入を検討している ■ 導入を検討していない



長時間労働の是正・解消の取組みは、

「身近な上司からの声かけ」や

「残業の事前承認」、

「会議時間・回数の見直し」など、

日常的なマネジメントによる対応が
多くの事業所で導入されている。

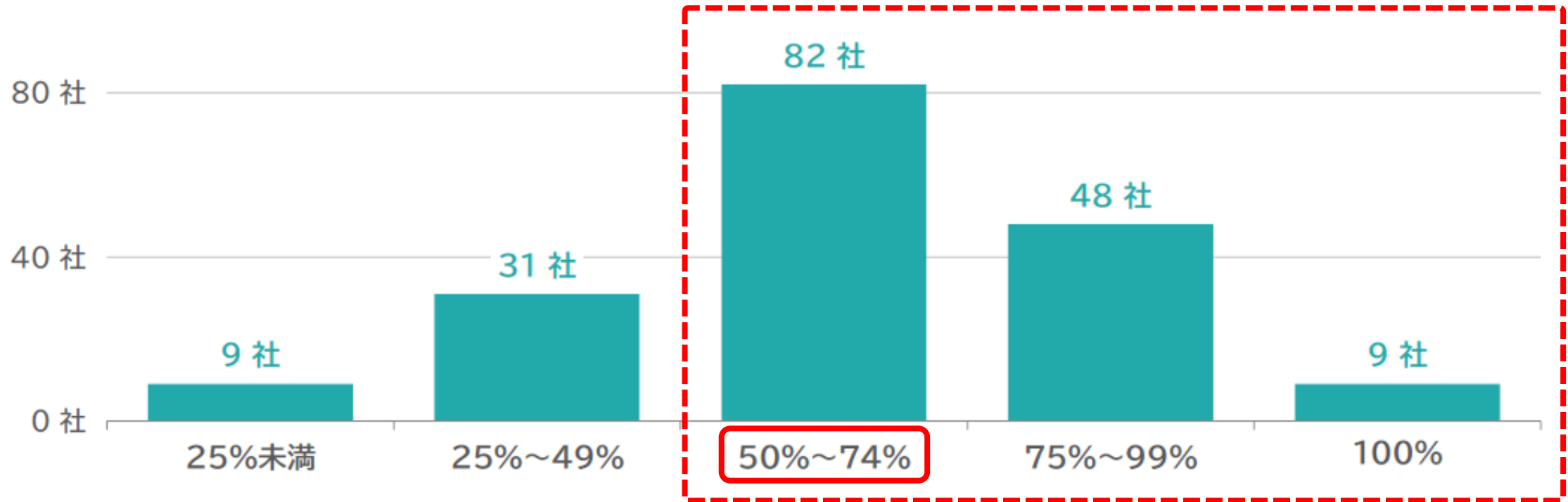
一方、制度的な取組みの導入は限定的。

Q5 直近の事業年度（または把握できる直近の1年間）における年次有給休暇平均取得率は概ね何%ですか。小数点以下は切り上げて、整数でお答えください。

※算出式 = 年間延べ取得（消化）日数 / 年間延べ付与日数（繰越日数を除く従業員全ての付与日数の合計）

《 年次有給休暇の平均取得率 》（全体：n=179）

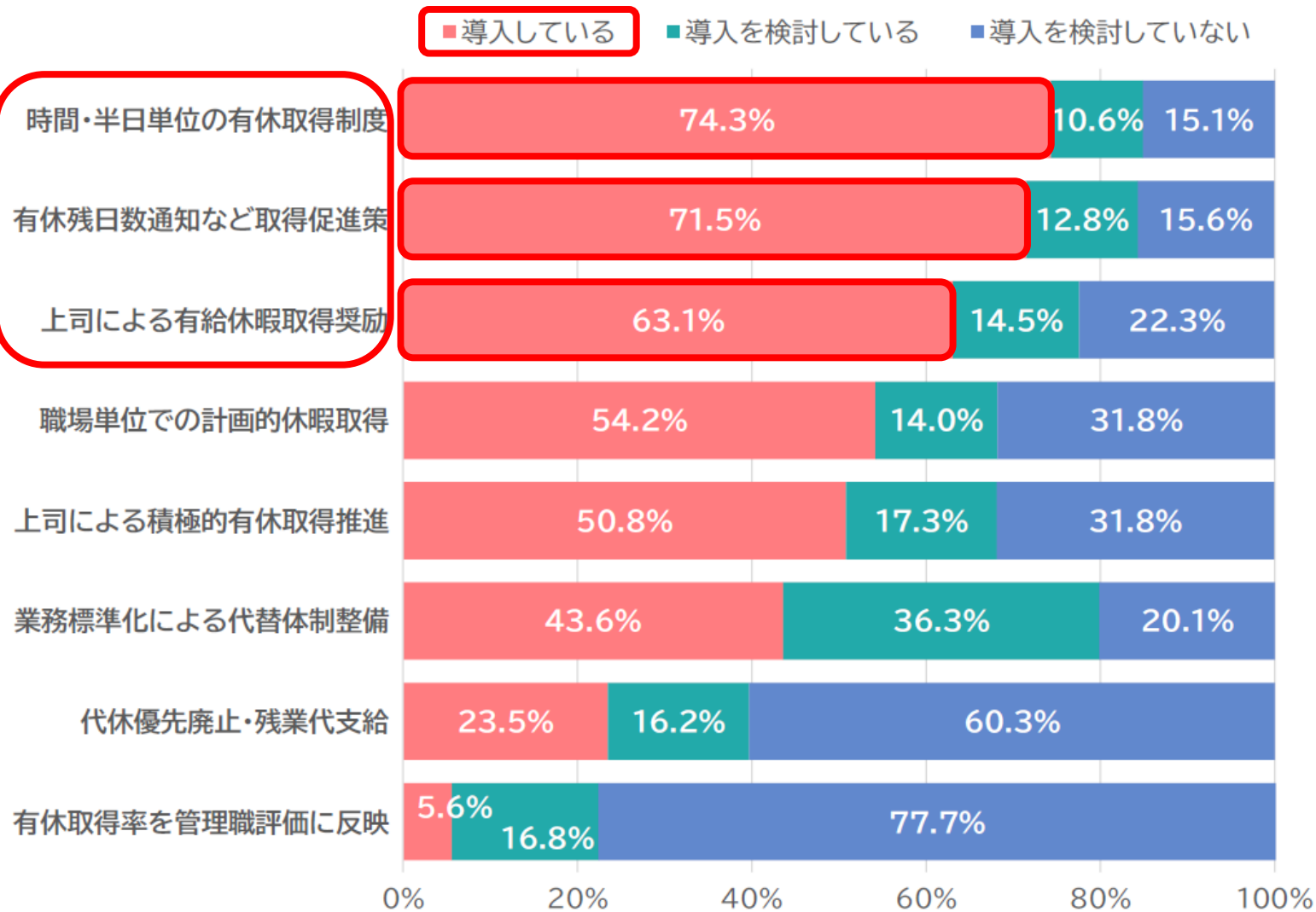
取得率50%以上



年次有給休暇取得状況では、取得率50%以上の事業所が多数を占め、取得意識の向上がみられる。最多は50%~74%の82社（45.8%）。一方、取得率25%未満の事業所も存在する（9社）。

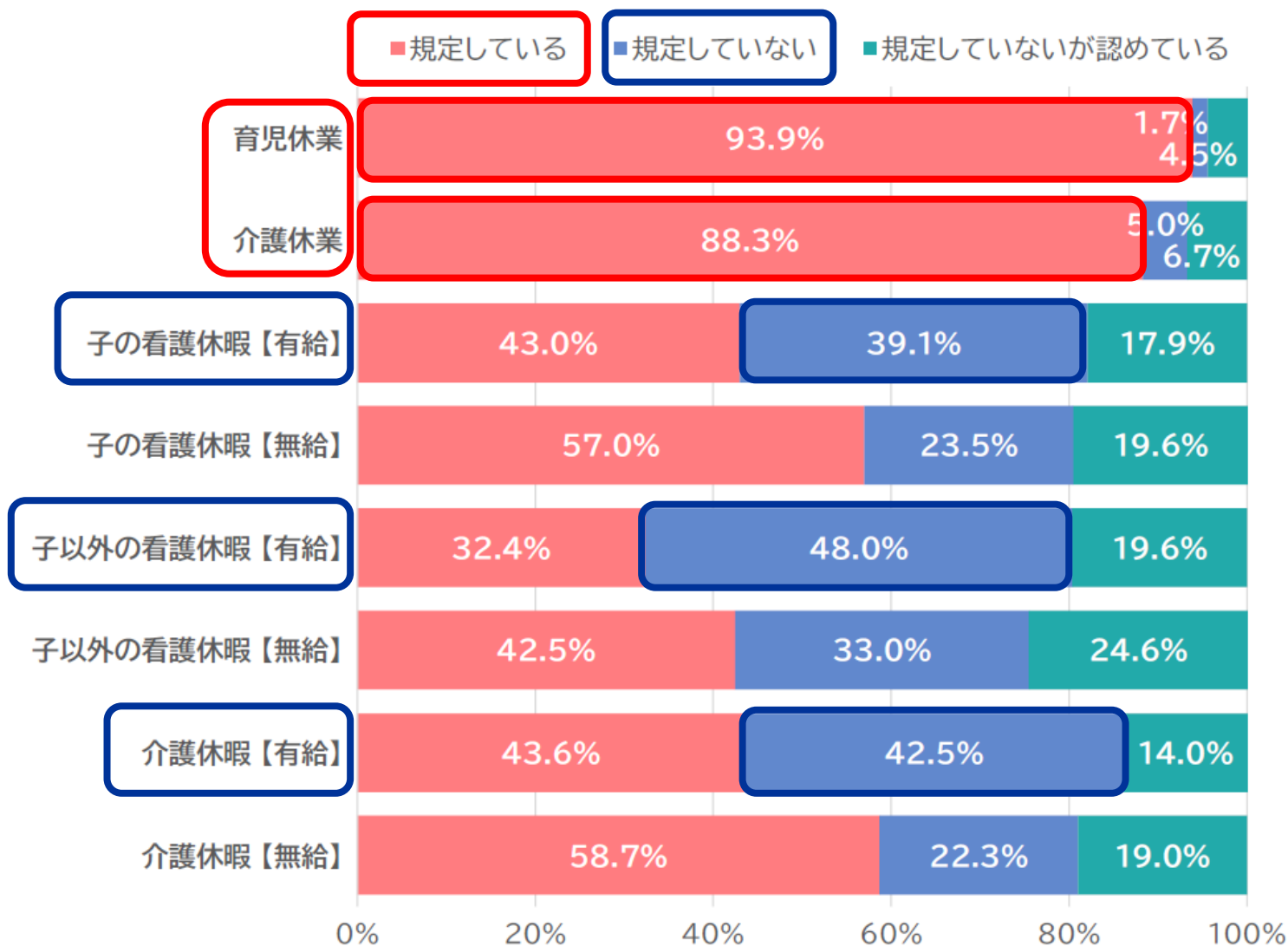
有給休暇取得を促進するための次の取組例に係る導入状況について教えてください。
(項目ごとに1つずつ選択)

◀ 有給休暇取得促進の取組み状況 ▶ (全体：n=179) (単回答)



有給休暇取得促進の取組みでは、
「時間単位、半日単位など柔軟な有給休暇の取得制度」
「積極的な休暇取得の仕組みづくり」
の導入が多く、
制度面と職場環境の両面からの取得促進が進められている。

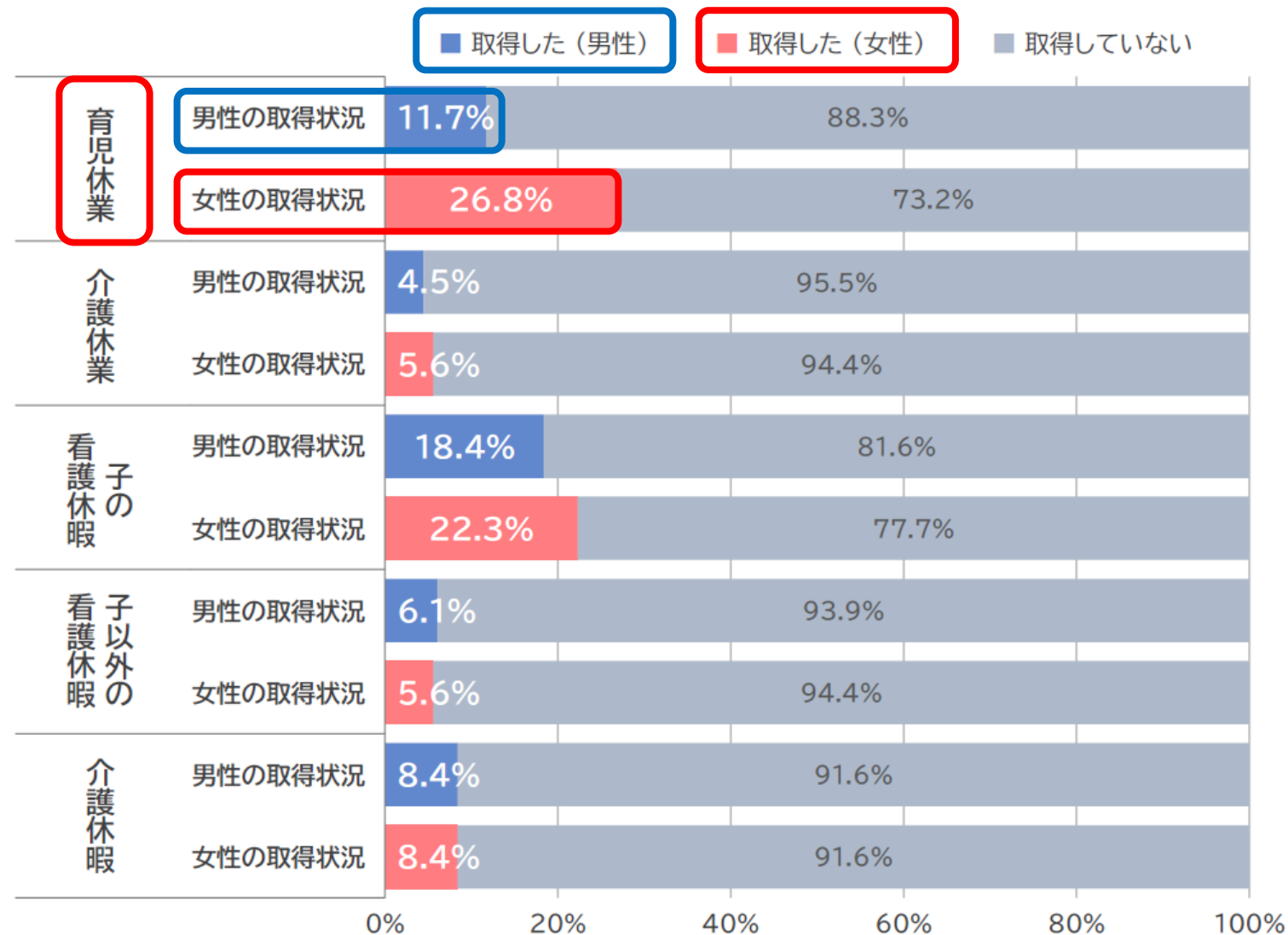
「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」に基づく育児休業、介護休業並びに子の看護休暇、介護休暇の制度について、就業規則等に規定していますか。（項目ごとに1つずつ選択）



育児休業や介護休業については、多くの事業所で就業規則に規定されており、取得が制度上認められていることが明確。

一方、看護休暇や介護休暇の有給規定は規定率が低く、事業所間で取扱いに差あり。

◀ 各種休業・休暇制度の利用状況 ▶（全体：n=179）（単回答）



育児休業や介護休業、看護休暇・介護休暇の取得は、男女ともに一部の事業所で実施されている。

取得状況は男性より女性の方が高い傾向にあり、（特に、「育児休業」が顕著）

制度は利用されつつも、全体としては限定的な状況である。

女性活躍推進について

Q11 女性従業員（正規従業員）の働き方として、どのような実態が一番多いですか。
 （あてはまるもの1つ）

◀ 女性従業員の働き方の実態 ▶（全体：n=179）（単回答）

41.3%

出産後、育休取得後に復帰し継続就業



74社

結婚や妊娠・出産する女性がない 45社

子育てしながら再就職している 12社

出産後、産休後に復帰し継続就業 11社

5.6%

妊娠・出産を契機に退職する



子育て後に再就職している 5社

結婚を契機に退職する 4社

家族の介護のために退職する 0社

そもそも女性従業員(正規)がない 9社

その他 9社

■全体 (n=179)

0社 40社 80社

女性従業員の就業継続状況は事業所によって差があり、

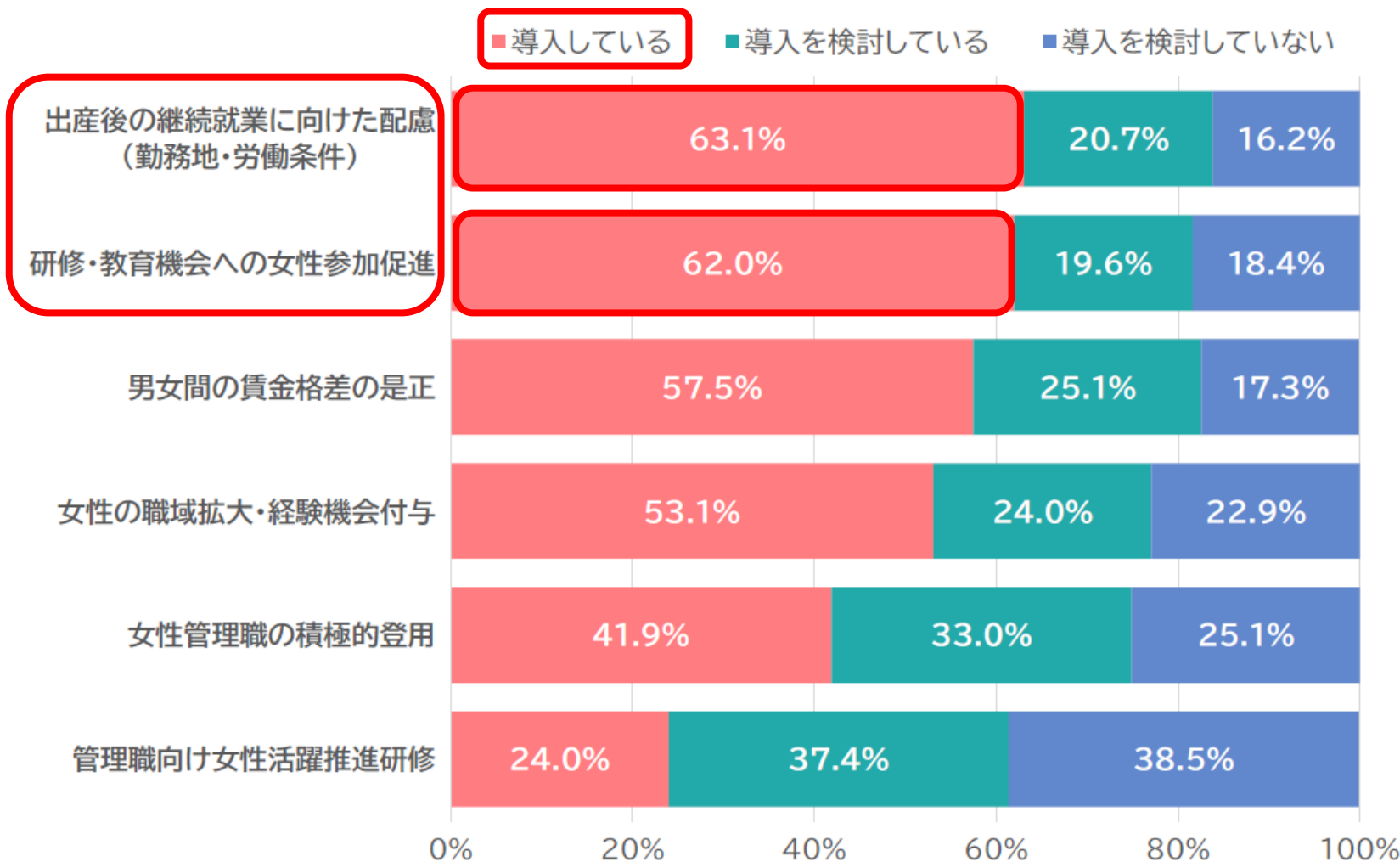
「子を出産して産休・育休後に復帰し継続して就業している」事業所は74社（41.3%）にとどまる。

出産や育児を契機に離職する事業所は10社（5.6%）あり。

育児・出産を契機とした離職防止や就業継続支援の整備が課題。

(項目ごとに1つずつ選択)

◀ 女性活躍推進の取組み状況 ▶ (全体：n=179) (単回答)



・出産後の継続就業に向けた配慮 (勤務地や労働条件)

・研修・教育機会への女性の参加促進

などの基本的施策は6割以上の事業所で導入。

女性の継続就業やキャリア支援への意識は比較的高い。

◀ 女性活躍推進の課題 ▶ (全体：n=179) (複数回答可)

52.0%

家庭生活負担の女性偏重(家事・育児・介護)

93社

管理職を希望する女性の少なさ

72社

知識・経験を持つ女性人材不足

71社

時間外・深夜労働の制約

56社

女性の職種の限定

46社

重量物・危険業務の法的制約

36社

女性の職業意識の低さ

24社

男性管理職・同僚の理解不足

12社

顧客・社会の理解不足

12社

その他

9社

■ 全体 (n=179)

0社

50社

100社

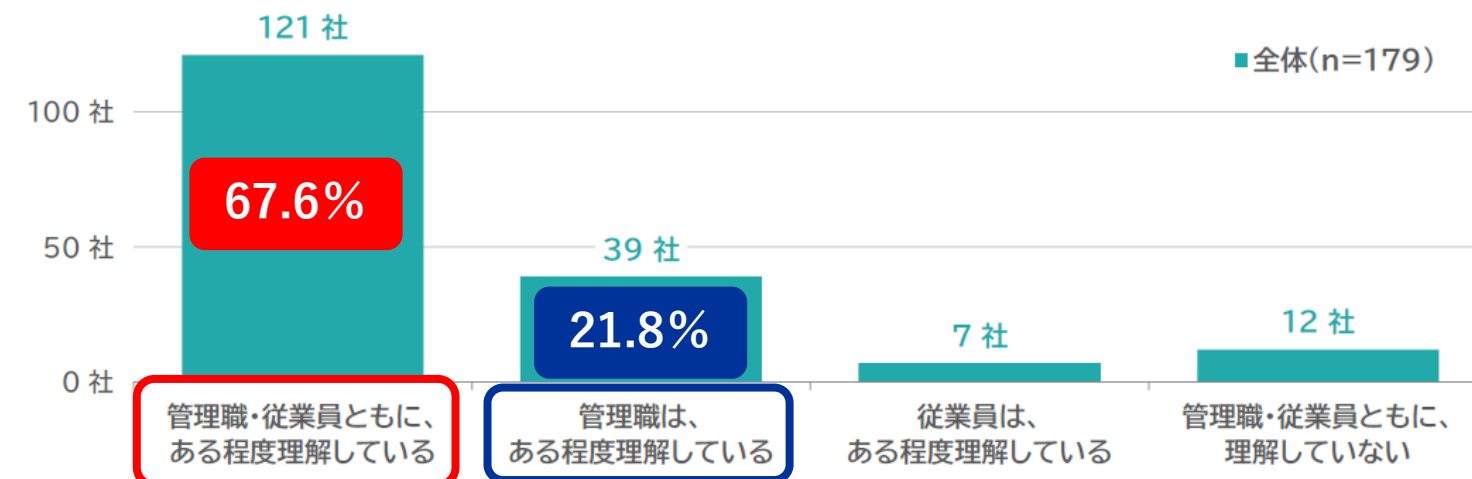
「家庭生活（家事・育児・介護等）の女性への負担」は93社（52.0%）で最も多く、女性活躍推進の制約要因として依然大きい。また、管理職希望者の少なさや必要スキルを持つ女性人材の不足も顕著。

ワーク・ライフ・バランスについて

Q14 「ワーク・ライフ・バランス」の理解度の実態についてお伺いします。(あてはまるもの1つ)

ワーク・ライフ・バランス①

« 「ワーク・ライフ・バランス」の理解度 » (全体：n=179) (単回答)

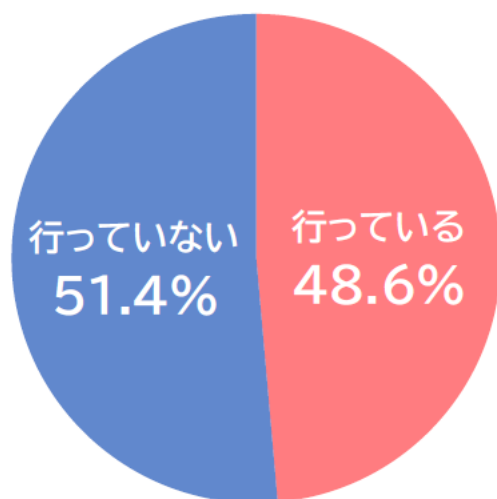


「管理職・従業員ともに理解している」とする事業所が多数 (121社 67.6%) を占め、企業内での認知は一定程度進んでいると考えられる。

一方、「“管理職”は、理解している」とする回答も39社 (21.8%) あり、管理職層での理解が先行し、従業員への浸透には差がある可能性がうかがえる。

Q15 ワーク・ライフ・バランスに係る取組みを何かしら行っていますか。(あてはまるもの1つ)

ワーク・ライフ・バランス②

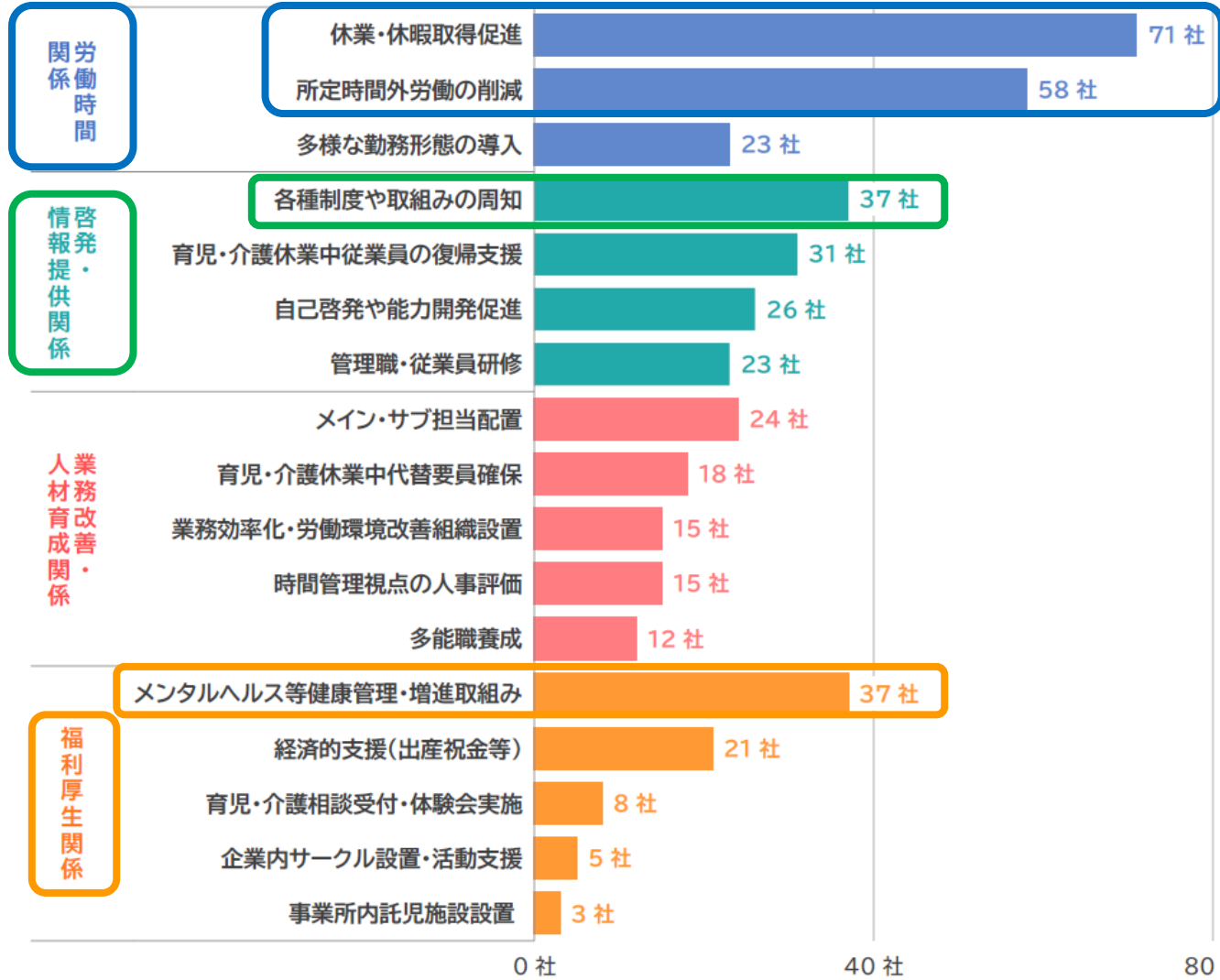


- ・「行っている」と回答した事業所：87社 (48.6%)
- ・「行っていない」とする事業所：92社 (51.4%)

実際の制度導入や取組みの実施には至っていない事業所も多いと考えられ、取組みを促進するための支援や情報提供の必要性がうかがえる。

Q16-1 Q15で「行っている」と回答された事業所に伺います。ワーク・ライフ・バランスに関して、どのような取組みを行っていますか。（複数回答可）

◀ 実施しているワーク・ライフ・バランスの取組み ▶
 (Q15で「行っている」と回答した事業所：n=87) (複数回答)



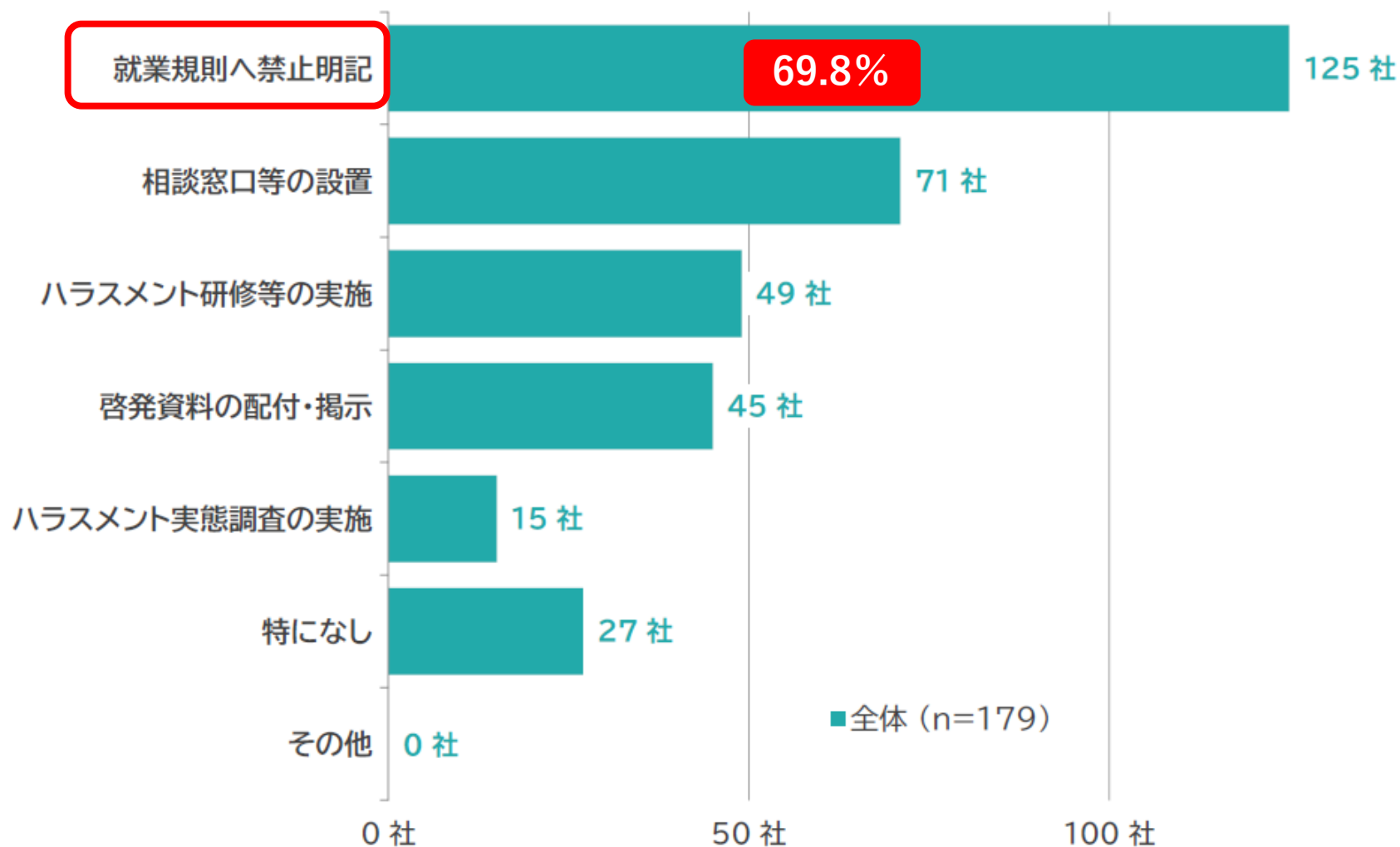
全体的に、ワーク・ライフ・バランス推進の中心は休業・休暇取得や時間外労働削減など『労働時間関係』の取組みに集中される傾向。

その他、『啓発・情報提供関係』における各種制度や取組の周知や

『福利厚生関係』におけるメンタルヘルス等健康管理・増進取組みについては一定数あり。

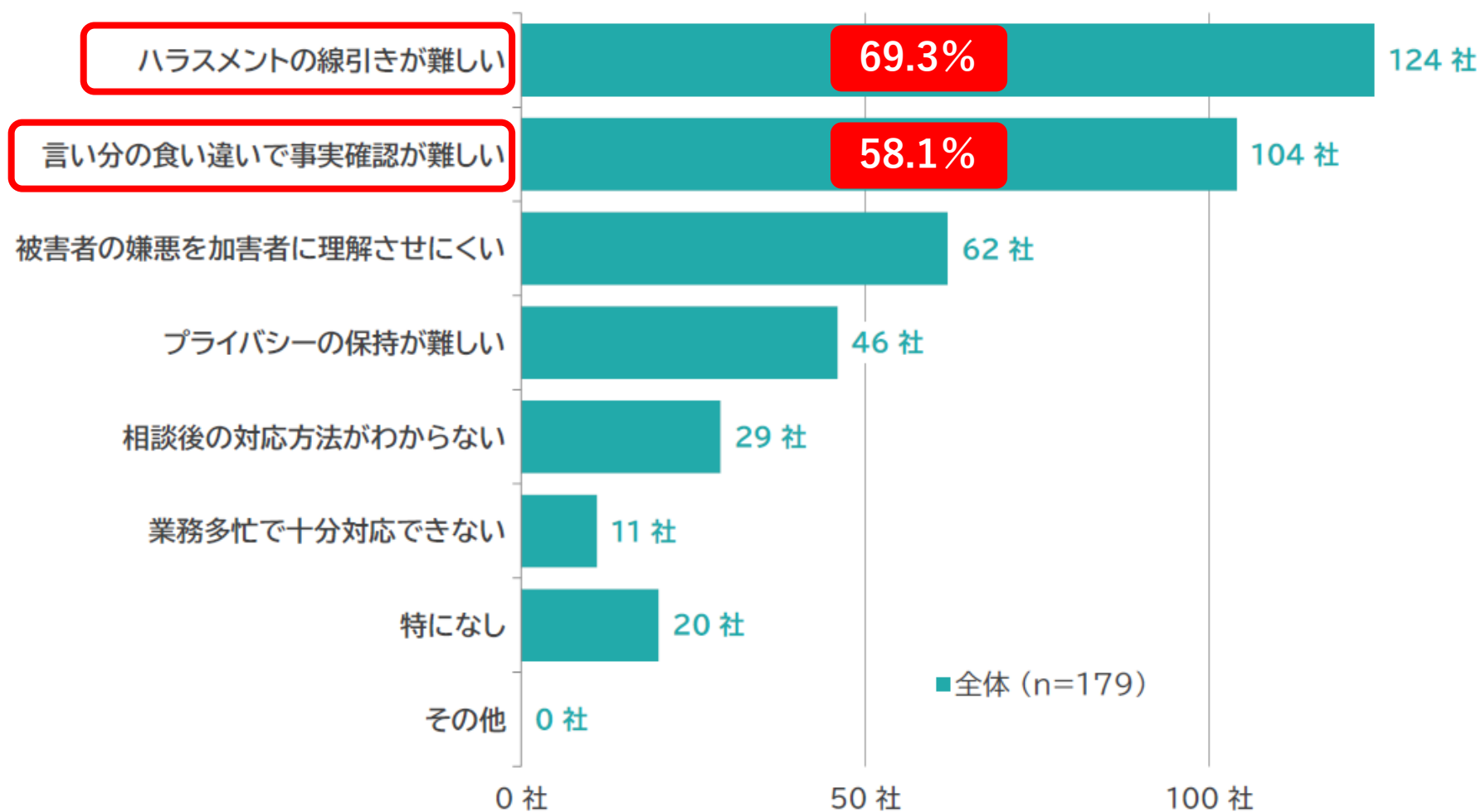
ハラスメント対策について

《 ハラスメント防止のための取組み 》 (全体：n=179) (複数回答可)



ハラスメント防止の取組みは、「就業規則等へのハラスメント禁止の明記」(125社、69.8%)が最も多く、制度面の整備が進む一方、研修や実態把握など実践的な取組みは比較的少ない状況が見られる。

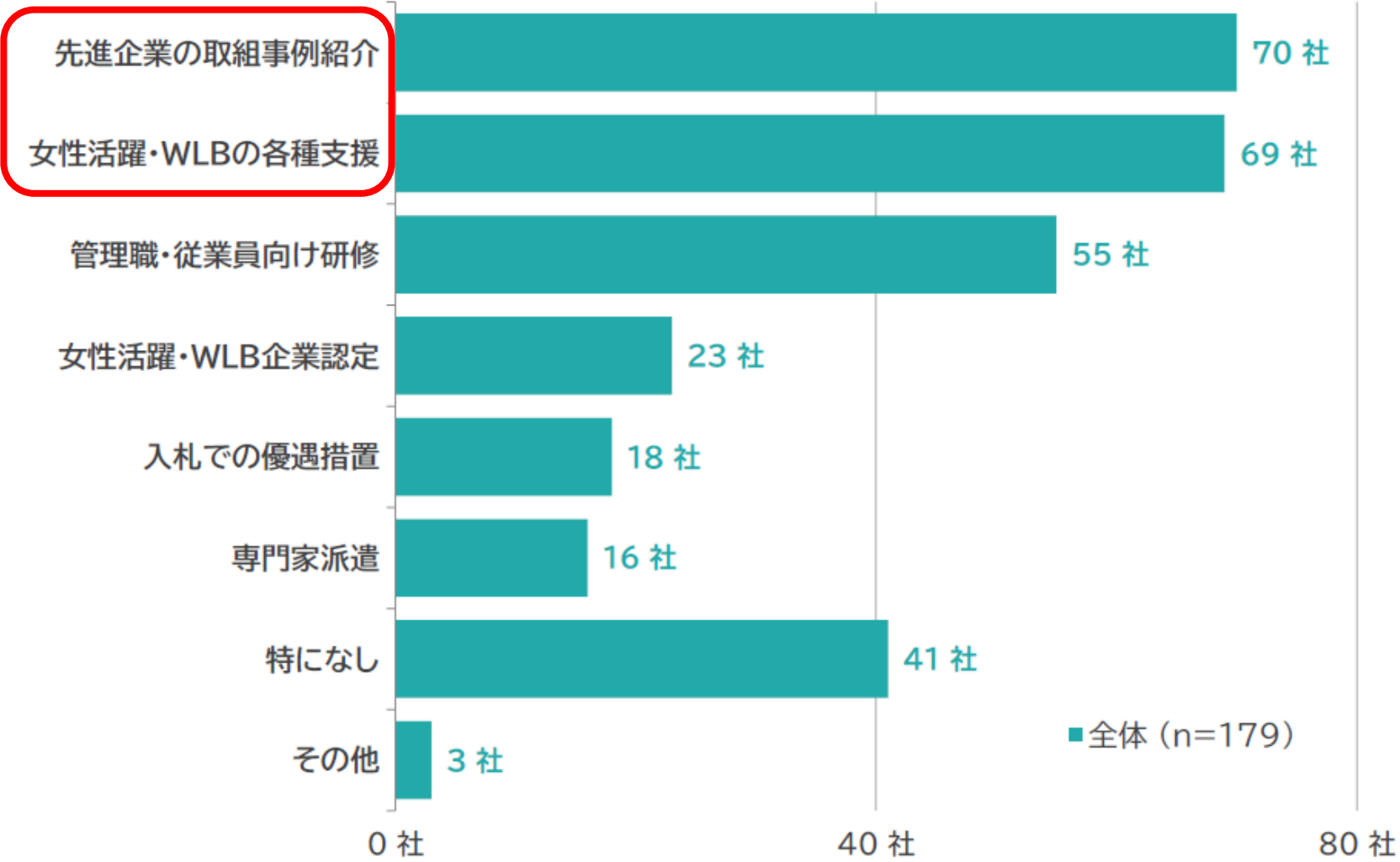
« ハラスメント対応時の困難点 » (全体：n=179) (複数回答可)



ハラスメント対応における困難点としては、「どこまでがハラスメントに該当するのか線引きが難しい」(124社、69.3%)が最多。次いで、「当事者の言い分が食い違うなど、事実確認が難しい」(104社、58.1%)が続き、判断や事実確認の難しさが大きな課題

市（行政）に望む支援について

≪ 市（行政）に望む支援 ≫（全体：n=179）（複数回答可）



●「成果をあげている企業の具体的な取組み事例の紹介」

●「女性活躍、ワーク・ライフ・バランスにかかる各種支援」

などを中心に、市（行政）に希望する。

また、「研修やセミナー実施」の希望も一定数あり。